

厚生労働大臣殿

学校法人 順天堂  
理事長 小 川 秀

順天堂大学医学部附属順天堂医院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成18年度の業務に関して報告します。  
記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	105.1 人
--------	---------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	418人	641.6人	1,059.6人	看護業務補助	26人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	1人	1.4人	2.4人	理学療法士	14人	臨床検査技師	78人
薬剤師	83人	0人	83人	作業療法士	7人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	12人	その他	0人
助産師	25人	0人	25人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	970人	0人	970人	臨床工学技士	21人	医療社会事業従事者	4人
准看護師	6人	0人	6人	栄養士	0人	その他の技術員	14人
歯科衛生士	3人	0人	3人	歯科技工士	0人	事務職員	157人
管理栄養士	20人	0人	20人	診療放射線技師	50人	その他の職員	58人

- (注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	935 人	0 人	935 人
1日当たり平均外来患者数	3,874 人	37 人	3,911 人
1日当たり平均調剤数	6,554 剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 1 高度先進医療の承認の有無及び取扱い患者数

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・顔面骨又は頭蓋骨の観血的移動術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・培養細胞による先天性代謝異常診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・溶血性貧血症の病因解析及び遺伝子解析診断法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・人工中耳	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
・性腺機能不全の早期診断法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・経皮的レーザー椎間板切除術(内視鏡下を含む)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・血小板膜糖蛋白異常症の病型及び病因診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・焦点式高エネルギー超音波療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・オープンMRを用いた腰椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査 被害に合う	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・SDI法による抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・栄養障害型表皮水疱症のDNA診断	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
・家族性アミロイドーシスのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・マス・スペクトロメトリーによる家族性アミロイドーシスの診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・抗がん剤感受性試験	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・不整脈疾患における遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・腹腔鏡下肝切除術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・画像支援ナビゲーション手術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・悪性腫瘍に対する粒子線治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・成長障害のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・生体部分肺移植術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・声帯内自家側頭筋膜移植術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・骨髄細胞移植による血管新生療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・ミトコンドリア病のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・鏡視下肩峰下腔徐圧術	有・ <input type="radio"/> 無	0人

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・神経変性疾患のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・脊髄性筋萎縮症のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・固形がんに対する重粒子線治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・カフェイン併用化学療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・31P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・特発性男性不妊症又は性腺機能不全症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・胎児尿路・羊水腔シャント術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・遺伝性コプロポルフィン症のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・固形腫瘍(神経芽腫)のRNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	<input checked="" type="radio"/> 有・無	5人
・重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・自家液体窒素処理骨による骨軟部腫瘍切除後骨欠損の再建	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・膝腫瘍に対する腹腔鏡補助下膝切除術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・悪性脳腫瘍に対する抗がん剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・高発がん性遺伝性皮膚疾患のDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・エキシマレーザー冠動脈形成術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・活性化Tリンパ球移入療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・抗がん剤感受性試験(CD-DST法)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・中枢神経白質形成異常症の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・内視鏡下甲状腺がん手術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによる経皮的椎間板減圧術(CT透視下法)	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・活性化血小板の検出	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・ケラチン病の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・末梢血幹細胞(CD34陽性細胞に限る。)による血管再生治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人
・末梢血単核球移植による血管再生治療	有・ <input type="radio"/> 無	0人

高度先進医療の種類(医科)	承認	取扱い患者数
・副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・グルタミン受容体自己抗体による自己免疫性神経疾患の診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・腹腔鏡下広汎子宮全摘出術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・自己腫瘍(組織)を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・自己腫瘍(組織)及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

高度先進医療の種類(歯科)	承認	取扱い患者数
・インプラント義歯	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・顎顔面補綴	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・顎関節症の補綴学的治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・歯周組織再生誘導法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・接着ブリッジによる欠損補綴並びに動揺歯固定	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・エックス線透視下非観血的唾石摘出術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・レーザー応用による齶蝕除去・スケーリングの無痛療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・顎関節鏡視下レーザー手術併用による円板縫合固定術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・顎関節脱臼内視鏡下手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
・耳鼻いんこう科領域の機能障害を伴った顎関節症に対する中耳伝音系を指標とした顎位決定法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術(PPH)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
画像支援ナビゲーションによる膝靭帯再建手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
強度変調放射線治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
胎児心超音波検査	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
画像支援ナビゲーションによる内視鏡下鼻内副鼻腔手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
インプラント義歯	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
顎顔面補綴	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
人工中耳	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
歯周組織再生誘導法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
抗がん剤感受性試験	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
腹腔鏡下肝切除術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
生体部分肺移植術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
活性化血小板の検出	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
末梢血幹細胞による血管再生治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

先進医療の種類	承認	取扱い患者数
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
超音波骨折治療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
眼底三次元画像解析	<input checked="" type="radio"/> 有・無	0人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
X線CT診断装置及び手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	0人

(注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 高度先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、空欄の部分に記入すること。

3 先進医療で上の表に掲げているものは、今年度の業務に関する報告の対象ではないが来年度以降の参考のため記入すること。

## 2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	127人	・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	29人
・多発性硬化症	104人	・ウェゲナー肉芽腫症	16人
・重症筋無力症	152人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	33人
・全身性エリテマトーデス	1,035人	・多系統萎縮症	35人
・スモン	0人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	20人
・再生不良性貧血	48人	・膿疱性乾癬	4人
・サルコイドーシス	188人	・広範脊柱管狭窄症	2人
・筋萎縮性側索硬化症	16人	・原発性胆汁性肝硬変	52人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	386人	・重症急性膀胱炎	5人
・特発性血小板減少性紫斑病	105人	・特発性大腿骨頭壊死症	37人
・結節性動脈周囲炎	53人	・混合性結合組織病	166人
・潰瘍性大腸炎	388人	・原発性免疫不全症候群	5人
・大動脈炎症候群	41人	・特発性間質性肺炎	21人
・ピュルガー病	26人	・網膜色素変性症	96人
・天疱瘡	59人	・プリオン病	0人
・脊髄小脳変性症	50人	・原発性肺高血圧症	4人
・クローン病	61人	・神経線維腫症	17人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・悪性関節リウマチ	89人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・パーキンソン病関連疾患	1,004人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	1人
・アミロイドーシス	6人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	2人
・後縦靭帯骨化症	27人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	0人		

(注)「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

合計

4,511人

## 3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	<p>① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。</p> <p>② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。</p>		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1週間に	1～2回程度	
	1カ月に	6～8回程度	
剖検の状況	剖検症例数	55例	剖検率 9.6%

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (単位千円)	補助元又は委託元
幹細胞の未分化性と骨髄内微小環境との相互作用	服部 浩一	アトピーセンター	3,500	補 文部科学省
虚血ニッチの形成過程とその生理学的意義の解明	服部 浩一	アトピーセンター	3,900	補 文部科学省
上皮組織が産生する殺菌物質のケラチノサイトに対する作用	ニョンサバ フランソワ	アトピーセンター	2,100	補 文部科学省
マスト細胞機能を制御する転写調節因子の解析とアトピー性疾患への関わり	中野 信浩	アトピーセンター	2,000	補 文部科学省
角膜内皮細胞特異的プロモーターの検索	藤巻 拓郎	眼科学	200	補 文部科学省
垂直・水平伝播の網羅的同定による細菌のゲノム進化の解明	竹内 史比古	感染制御科学	1,000	補 文部科学省
膵癌肝転移に関わる遺伝子の siRNA 法による機能解析	藤原 典子	肝胆膵外科学	1,300	補 文部科学省
SLEモデルマウスにおける Y a a 遺伝子変異によるマージナルゾーン B 細胞の分化異常	天野 浩文	膠原病内科学	1,700	補 文部科学省
ヒト肺がん及び悪性胸膜中皮腫の腫瘍マーカーの検討	塩見 和	呼吸器外科学	1,600	補 文部科学省
多発性嚢胞性肺疾患における BHD 遺伝子解析 — 嚢胞形成の分子病因的検討 —	瀬山 邦明	呼吸器内科学	900,000	補 文部科学省
肺癌・分子標的治療薬 イレッサ による急性肺障害の検討	嶋田 奈緒子	呼吸器内科学	1,600	補 文部科学省
慢性低酸素曝露ハムスターの肺高血圧進展におけるキマーゼの関与	長岡 鉄太郎	呼吸器内科学	1,900	補 文部科学省

小 計 12 件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (単位千円)	補助元又は委託元
間質性肺炎を発症する挿入突然変異マウスの病態解析および原因遺伝子の同定	高橋 史行	呼吸器内科学	1,800	補 文部科学省
オステオポンチンは間質性肺炎の新規マーカーになりうるか?	平間 未知大	呼吸器内科学	1,800	補 文部科学省
遺伝子改変動物を用いたコルチリンバのホメオスターシスに関する分子メカニズムの解析	池田 勝久	耳鼻咽喉科学	1,300	補 文部科学省
Gjb2 コンディショナル・ノックアウトマウスの遺伝子導入による内耳の再生への挑戦	小笠原 香織	耳鼻咽喉科学	1,200	補 文部科学省
遺伝子導入における歪成分耳音響放射を用いた内耳機能再生の評価	小宮 尚	耳鼻咽喉科学	1,200	補 文部科学省
Gjb2 マウスを用いたKイオン・リサイクリングの分子機構の解明	戸田 恵	耳鼻咽喉科学	2,100	補 文部科学省
鼓膜留置型の振動子を用いた先進的電磁補聴システムの開発	一針 幸子	耳鼻咽喉科学	2,100	補 文部科学省
レーザーを用いたマウス内耳への低侵襲遺伝子導入法の確立	白井 亜希子	耳鼻咽喉科学	1,300	補 文部科学省
肝線維化の制御機構におけるBMPの作用機序の解明	塚田 重城	消化器内科学	1,400	補 文部科学省
薬物性肝障害・薬剤治療抵抗性発症のメカニズムの解明ーインスリン抵抗性の関与ー	今 一義	消化器内科学	1,400	補 文部科学省
慢性C型肝炎におけるオートファジーの生理学的意義の解明	山科 俊平	消化器内科学	2,100	補 文部科学省
表面型大腸腫瘍に関する分子遺伝学的研究 (BHD変異を中心に)	坂本 直人	消化器内科学	1,100	補 文部科学省

小計 12件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (単位千円)	補助元又は委託元
パーキンソン病におけるリン酸化アルファ・シヌクレイン制御薬剤の開発	望月 秀樹	神経学	1,600	補 文部科学省
パーキンソン病における $\alpha$ -synuclein と酸化ストレスの共同作用機序	王 梅	神経学	700	補 文部科学省
脳梗塞の発症・進展に関わるメタボリック症候群分子メカニズムの解明	下 由美	神経学	1,700	補 文部科学省
グルタミン酸輸送体異常とリン酸化タウの相互作用の解析	志村 秀樹	神経学	1,100	補 文部科学省
肥満候補遺伝子 <i>Azgp1</i> を用いた抗肥満創薬の試み	合田 朋仁	腎臓内科学	1,600	補 文部科学省
統合失調症患者における反応競合下の前頭葉の活性に関する事象関連 fMRI を用いた検討	福田 麻由子	精神医学	700	補 文部科学省
膵 $\beta$ 細胞分化に関わる転写因子の網羅的検索—プロテオミックスの手法を用いて—	河盛 隆造	代謝内分泌学	2,000	補 文部科学省
膵臓特異的転写因子を用いた膵 $\beta$ 細胞の再生医療の研究	萩原 健	代謝内分泌学	1,000	補 文部科学省
MRS, MRI を用いた新規骨格筋代謝マーカーの確立とその応用	田村 好史	代謝内分泌学	1,800	補 文部科学省
臍帯上皮細胞を使用した培養表皮シートの作製	溝口 将之	皮膚科学	1,600	補 文部科学省
ヒト皮膚器官培養系を用いたカルシウムポンプ病の実験モデルの作成と遺伝子発現解析	黛 暢恭	皮膚科学	1,300	補 文部科学省
疾患モデル動物を用いた多段階発がん研究：腎発がんの遺伝情報システム	樋野 興夫	病理学 2	9,700	補 文部科学省

小 計 12 件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (単位千円)	補助元又は委託元
腫瘍随伴マクロファージによる血管新生機構を標的とした乳癌治療の開発と臨床応用	廣田 聡子	輸血学	2,100	補 文部科学省
パーキンソン病における神経細胞死の機序解明とその防御	水野 美邦	老研センター	17,300	補 文部科学省
ヘパラン硫酸プロテオグリカン、パルカンによる筋収縮シグナルの制御の研究	平澤 恵理	老人性疾患治療病態研究センター	2,500	補 文部科学省
細胞外マトリックス分子によるシグナル局在化の分子機構の解明	平澤 恵理	老人性疾患治療病態研究センター	16,800	補 文部科学省
難聴遺伝子 GJB2 KO マウスにおける蝸牛障害のナノスケールの解析	畠 将晃	耳鼻咽喉科学	2,100	補 文部科学省
ダニ主要アレルゲンのシステインプロテアーゼ活性に依存する IgE 産生誘導現象の解析	高井 敏朗	アトピーセンター	2,100	補 日本学術振興会
血液線溶因子による生体内造血制御機構の解明	Heissig Beat	アトピーセンター	1,900	補 日本学術振興会
アレルギー疾患に関わる細胞機能制御遺伝子と転写調節因子	西山 千春	アトピーセンター	1,500	補 日本学術振興会
重症アレルギー性結膜疾患の角膜障害における肥満細胞キマーゼの関与とその制御	海老原 伸行	眼科学	2,500	補 日本学術振興会
ブドウ球菌属に於ける遺伝子の水平伝播機構の解析	渡邊 真弥	感染制御科学	1,000	補 日本学術振興会
生体肝移植における過小グラフトの血行動態に関する臨床研究	川崎 誠治	肝胆膵外科学	10,600	補 日本学術振興会
自己吸収型延長器による頭蓋骨延長術の実験的研究	小室 裕造	形成外科学	600	補 日本学術振興会

小計 12件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (単位千円)	補助元又は委託元
遠位端側神経縫合における二重神経支配のメカニズム	梁井 皎	形成外科学	700	補 日本学術振興会
E B ウイルス感染によるヒトNK細胞のアポトーシス耐性機序	磯部 泰司	血液学	1,200	補 日本学術振興会
SLE 発症における DNA 転写統御機構異常の重要性—新たな治療戦略への展望—	関川 巖	膠原病内科学	700	補 日本学術振興会
肺リンパ脈管筋腫症 (LAM) におけるLAM細胞の増殖および病変形成機構の解明	瀬山 邦明	呼吸器内科学	4,500	補 日本学術振興会
胎児環境汚染のリスク評価に有用なバイオマーカーの同定	長田 久夫	産婦人科学	700	補 日本学術振興会
細菌性中耳炎におけるアポトーシスによる中耳粘膜肥厚の分子制御とその治療	古川 正幸	耳鼻咽喉科学	2,100	補 日本学術振興会
消化器発癌における脂質と酸化ストレスの役割の解明 遺伝子改変動物モデルを用いて	渡辺 純夫	消化器内科学	6,118	補 日本学術振興会
慢性肝疾患・肝癌の進展性規定と治療抵抗性形成におけるアディポサイトカインの役割	池嶋 健一	消化器内科学	500	補 日本学術振興会
過敏性腸症候群における腸管神経ペプチドホルモン系の動き—大腸粘膜細菌の役割	大草 敏史	消化器内科学	1,500	補 日本学術振興会
スフィンゴミエリンの未熟児における脳・神経発達に及ぼす影響の検討	清水 俊明	小児科学	500	補 日本学術振興会
小児期炎症性腸疾患の病態解析および栄養療法の検討	大塚 宜一	小児科学	1,500	補 日本学術振興会
胆道閉鎖症の病因—血中母体マイクロケミリズムの可能性についての研究	小林 弘幸	小児外科学	100	補 日本学術振興会

小 計 12件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った

研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (単位千円)	補助元又は委託元
家族性パーキンソン病の原因遺伝子の機能解明と新規原因遺伝子の同定に向けて	服部 信孝	神経学	7,400	補 日本学術振興会
神経変性疾患・タウ蛋白蓄積症の診断法の実用化と病態解明	森 秀生	神経学	900	補 日本学術振興会
若年性パーキンソン病における PINK1 および DJ-1 遺伝子変異の大規模解析	佐藤 健一	神経学	1,700	補 日本学術振興会
RNA 編集産物 UBB+1 の制御を標的とした新規脳梗塞治療	卜部 貴夫	神経学	1,700	補 日本学術振興会
Lipid rafts における遺伝性パーキンソン病原因タンパクの機能解析	久保 紳一郎	神経学	2,200	補 日本学術振興会
Mass spectrometry を用いた I g A 腎症の原因抗原の解明	鈴木 祐介	腎臓内科学	2,000	補 日本学術振興会
糸球体 I g A 沈着における T h 2 型粘膜免疫反応の役割	富野 康日己	腎臓内科学	2,500	補 日本学術振興会
変形性膝関節症に対する運動療法の有効性とその自然経過：SNP による解析	黒澤 尚	整形外科	100	補 日本学術振興会
統合失調症の認知機能の fMRI、ERP、LORETA を用いた統合的検討	桐野 衛二	精神医学	700	補 日本学術振興会
2 型糖尿病感受性遺伝子 W n t 5 b の肝糖代謝における役割の解明	金澤 昭雄	代謝内分泌学	1,800	補 日本学術振興会
膵発生分化、膵 β 細胞機能におけるヘッジホッグシグナルの役割の検討	綿田 裕孝	代謝内分泌学	1,800	補 日本学術振興会
羊膜細胞による神経再生研究—神経幹細胞としての確立と虚血脳への移植	新井 一	脳神経外科学	1,100	補 日本学術振興会

小計 12 件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (単位千円)	補助元又は委託元
ヘイリーヘイリー病とダリエ病遺伝子のプロモーター領域の解析 (第2次)	池田 志 孝	皮膚科学	1,300	補 日本学術振興会
MPO-ANCA 関連血管炎自然発症マウスの疾患感受性遺伝子の同定	濱野 慶 朋	病理学 2	1,700	補 日本学術振興会
GPI アンカー蛋白をコードする Erc 遺伝子の機能解析	張 丹 青	病理学 2	1,900	補 日本学術振興会
甲状腺癌及び好酸性細胞腫瘍における Niban 遺伝子発現とミトコンドリア異常の解析	藤井 博 昭	病理学 2	1,800	補 日本学術振興会
Birt-Hogg-Dube 症候群原因遺伝子 (BHD) の腫瘍抑制機能の解明	小林 敏 之	病理学 2	2,200	補 日本学術振興会
肝発癌過程における dbpA の役割	梶野 一 徳	病理学 2	1,800	補 日本学術振興会
大脳基底核におけるシナプス可塑性と虚血耐性に対する吸入麻酔薬の影響に関する研究	西村 欣 也	麻酔科・ペインクリニック講座	1,100	補 日本学術振興会
脳内神経ネットワーク見たモルヒネと吸入麻酔薬の作用機序に関する研究	赤澤 年 正	麻酔科・ペインクリニック講座	1,200	補 日本学術振興会
モデルマウスを用いた Schwartz-Jampel 症候群の病態生理と治療研究	林 明 人	リハビリテーション医学	1,000	補 日本学術振興会

小 計 9 件

( 合 計 81 件 )

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った

研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (単位千円)	補助元又は委託元
遠位端側神経縫合における二重神経支配のメカニズム	梁井 皎	形成外科学	700	補 日本学術振興会
EBウイルス感染によるヒトNK細胞のアポトーシス耐性機序	磯部 泰司	血液学	1,200	補 日本学術振興会
SLE 発症における DNA 転写統御機構異常の重要性—新たな治療戦略への展望—	関川 巖	膠原病内科学	700	補 日本学術振興会
肺リンパ脈管筋腫症 (LAM) におけるLAM細胞の増殖および病変形成機構の解明	瀬山 邦明	呼吸器内科学	4,500	補 日本学術振興会
胎児環境汚染のリスク評価に有用なバイオマーカーの同定	長田 久夫	産婦人科学	700	補 日本学術振興会
細菌性中耳炎におけるアポトーシスによる中耳粘膜肥厚の分子制御とその治療	古川 正幸	耳鼻咽喉科学	2,100	補 日本学術振興会
消化器発癌における脂質と酸化ストレスの役割の解明 遺伝子改変動物モデルを用いて	渡辺 純夫	消化器内科学	6,118	補 日本学術振興会
慢性肝疾患・肝癌の進展性規定と治療抵抗性形成におけるアディポサイトカインの役割	池嶋 健一	消化器内科学	500	補 日本学術振興会
過敏性腸症候群における腸管神経ペプチドホルモン系の動き—大腸粘膜細菌の役割	大草 敏史	消化器内科学	1,500	補 日本学術振興会
スフィンゴミエリンの未熟児における脳・神経発達に及ぼす影響の検討	清水 俊明	小児科学	500	補 日本学術振興会
小児期炎症性腸疾患の病態解析および栄養療法の検討	大塚 宜一	小児科学	1,500	補 日本学術振興会
胆道閉鎖症の病因—血中母体マイクロキメリズムの可能性についての研究	小林 弘幸	小児外科学	100	補 日本学術振興会

小計 12件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (単位千円)	補助元又は委託元
家族性パーキンソン病の原因遺伝子の機能解明と新規原因遺伝子の同定に向けて	服部 信孝	神経学	7,400	補 日本学術振興会
神経変性疾患・タウ蛋白蓄積症の診断法の実用化と病態解明	森 秀生	神経学	900	補 日本学術振興会
若年性パーキンソン病における PINK1 および DJ-1 遺伝子変異の大規模解析	佐藤 健一	神経学	1,700	補 日本学術振興会
RNA 編集産物 UBB+1 の制御を標的とした新規脳梗塞治療	ト部 貴夫	神経学	1,700	補 日本学術振興会
Lipid rafts における遺伝性パーキンソン病原因タンパクの機能解析	久保 紳一郎	神経学	2,200	補 日本学術振興会
Mass spectrometry を用いた IgA 腎症の原因抗原の解明	鈴木 祐介	腎臓内科学	2,000	補 日本学術振興会
糸球体 IgA 沈着における Th 2 型粘膜免疫反応の役割	富野 康日己	腎臓内科学	2,500	補 日本学術振興会
変形性膝関節症に対する運動療法の有効性とその自然経過：SNP による解析	黒澤 尚	整形外科	100	補 日本学術振興会
統合失調症の認知機能の fMRI、ERP、LORETA を用いた統合的検討	桐野 衛二	精神医学	700	補 日本学術振興会
2 型糖尿病感受性遺伝子 Wnt5b の肝糖代謝における役割の解明	金澤 昭雄	代謝内分泌学	1,800	補 日本学術振興会
膵発生分化、膵 β 細胞機能におけるヘッジホッグシグナルの役割の検討	綿田 裕孝	代謝内分泌学	1,800	補 日本学術振興会
羊膜細胞による神経再生研究－神経幹細胞としての確立と虚血脳への移植	新井 一	脳神経外科学	1,100	補 日本学術振興会

小 計 12 件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額 (単位千円)	補助元又は委託元
ヘイリーヘイリー病とダリエ病遺伝子のプロモーター領域の解析 (第2次)	池田志孝	皮膚科学	1,300	補 日本学術振興会
MPO-ANCA 関連血管炎自然発症マウスの疾患感受性遺伝子の同定	濱野慶朋	病理学2	1,700	補 日本学術振興会
GPI アンカー蛋白をコードする Erc 遺伝子の機能解析	張丹青	病理学2	1,900	補 日本学術振興会
甲状腺癌及び好酸性細胞腫瘍における Niban 遺伝子発現とミトコンドリア異常の解析	藤井博昭	病理学2	1,800	補 日本学術振興会
Birt-Hogg-Dube 症候群原因遺伝子 (BHD) の腫瘍抑制機能の解明	小林敏之	病理学2	2,200	補 日本学術振興会
肝発癌過程における dbpA の役割	梶野一徳	病理学2	1,800	補 日本学術振興会
大脳基底核におけるシナプス可塑性と虚血耐性に対する吸入麻酔薬の影響に関する研究	西村欣也	麻酔科・ペインクリニック講座	1,100	補 日本学術振興会
脳内神経ネットワーク見たモルヒネと吸入麻酔薬の作用機序に関する研究	赤澤年正	麻酔科・ペインクリニック講座	1,200	補 日本学術振興会
モデルマウスを用いた Schwartz-Jampel 症候群の病態生理と治療研究	林明人	リハビリテーション医学	1,000	補 日本学術振興会

小計 9件

(合計 81件)

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った

研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、一つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



## 2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
1	J Gen Virol	Oral Vaccination with Modified Vaccinia Ankara (MVA) Covalently Attached to TMPEG-modified Cationic Liposomes Overcomes Preexisting Poxvirus Immunity from Recombinant Vaccinia Immunization.	Naito T. (内藤俊夫)	総合診療科
2	Intern Med	Seroprevalence of IgG anti-toxoplasma antibodies in asymptomatic patients infected with human immunodeficiency virus in Japan.	Naito T. (内藤俊夫)	総合診療科
3	Genral Med	Acute retroviral syndrome presenting as infectious mononucleosis.	Naito T. (内藤俊夫)	総合診療科
4	Future Cardiology	Lipopolysaccharide, CD14, and Toll-like Receptors: An Emerging Link between Innate Immunity and Atherosclerotic Disease	Shimada K, Daida H	循環器内科学
5	Journal of cardiology	Research Group of Quality of Life for Ischemic Heart Disease : Health-related quality of life in Japanese patients with ischemic heart disease: a multicenter cooperative investigation assessed using SF-36	Nishiyama S, Daida H,	循環器内科学
6	International Heart Journal	; Impact of Aspirin Treatment on Long-Term Outcome (Over 10Years) After Percutaneous Coronary Intervention	Njaman W, Daida H	循環器内科学
7	International journal of cardiology	Long-term (11-year) statin therapy following percutaneous coronary intervention improves clinical outcome and is not associated with increased malignancy	Kasai T,Daida H	循環器内科学
8	Circulation journal	Clinical evaluation of adverse effects during bepridil administration for atrial fibrillation and flutter	Yasuda M, Daida H	循環器内科学
9	Arteriosclerosis, Thrombosis and Vascular Biology	Establishment of a high sensitivity plasma assay for human pentraxin3 as a marker for unstable angina pectoris	Inoue K, Daida H	循環器内科学
10	International Heart Journal	Efficacy and safety of controlled-release isosorbide-5-mononitrate in Japanese patients with stable effort angina pectoris	Shimada K,Daida H	循環器内科学
11	European heart journal	T helper 1/T helper 2 balance and HMG-CoA reductase inhibitors in acute coronary syndrome: statins as immunomodulatory agents?	Shimada K,Daida H	循環器内科学
12	Circulation journal	Prognostic value of the metabolic syndrome for long-term outcomes in patients undergoing percutaneous coronary intervention	Kasai T,Daida H	循環器内科学
13	Circulation journal	Japan assessment of pitavastatin and atorvastatin in acute coronary syndrome (JAPAN-ACS): rationale and design	Miyauchi K, Daida H	循環器内科学
14	J Clin Gastroenterol.	Increased esophageal sensitivity to acid and saline in patients with nonerosive gastro-esophageal reflux disease.	Nagahara A	消化器内科学
15	J Gastroenterol.	Metabolic syndrome and gastrointestinal dise	Watanabe S	消化器内科学

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
16	World J Gastroenterol.	Gastrointestinal stromal tumor of the stomach with a giant abscess penetrating the gastric lumen.	Osada T	消化器内科学
17	Cancer Lett	Endostatin Gene Transfer in Murine Lung Carcinoma Cells induces vascular endothelial growth factor resulting in up-regulation of in vivo tumorigenicity	Cui R, Takahashi K. et al.	呼吸器内科学
18	Lymphat Res Biol	Vascular endothelial growth factor-D is increased in serum of patients with lymphangioleiomyomatosis.	Seyama K, Kumasaka T et al.	呼吸器内科学, 病理学第1
19	Am J Respir Crit Care Med	Senescence Marker Protein-30 Protects Mice Lungs from Oxidative Stress, Aging and Smoking.	Sato T, Seyama K et al.	呼吸器内科学
20	J Leukoc Biol	Induction of human neutrophil chemotaxis by Candida albicans-derived $\alpha$ -1,6-long glycoside side-chain-branched $\beta$ -glucan.	Sato T, Iwabuchi K et al.	呼吸器内科学, 生化学第2
21	Respiration	Genistein, a phytoestrogen, attenuates monocrotaline-induced pulmonary hypertension.	Homma N, Morio Y et al.	呼吸器内科学
22	Nephrol Dial Transplant	Eicosapentaenoic acid ameliorates diabetic nephropathy of type 2 diabetic KKAY/Ta mice: Involvement of MCP-1 suppression and decreased ERK 1/2 and p38 phosphorylation	Hagiwara S	腎臓内科学
23	Food Function	ストレプトソトシン誘発糖尿病ラットにおける還元水の影響	金子 滋	腎臓内科学
24	Proc Natl Acad Sci USA 103: 6160-6165, 2006	Bispecific abs against modified protein and DNA with oxidized lipids.	高崎 芳成	膠原病内科学
25	Rheumatology (Oxford). 2006	Decreased CD161+CD8+ T cells in the peripheral blood of patients suffering from rheumatic diseases.	満尾 晶子	膠原病内科学
26	Autoimmunity. 2007Feb40(1): 9-15.	Down-regulation of CD72 and increased surface IgG on B cells in patients with lupus nephritis.	仲野 総一郎	膠原病内科学
27	日本臨床	Treatment of chronic lymphocytic leukemia and NK-cell leukemia/lymphoma	Sugimoto K.	血液内科学
28	Eur J Haematol.	Cytokine-producing sarcoma mimics eosinophilic leukemia	Ando J.	血液内科学
29	Int J Hematol.	Lung injury associated with bortezomib therapy in relapsed/refractory multiple myeloma in Japan: a questionnaire-based report from the "lung injury by bortezomib" joint committee of the Japanese society of hematology and the Japanese society of clinical hematology.	Oshimi K.	血液内科学
30	臨床血液	Type 1 hyper-IgM syndrome diagnosed in a 28-year-old patient with recurrent infections since childhood	Koike M.	血液内科学

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
31	日本眼科学会雑誌	A clinical study of intraocular malignant lymphoma	Oshimi K.	血液内科学
32	Intern Med.	T-gamma delta LGL leukemia with complications.	Oshimi K.	血液内科学
33	Oncogene	Spindle checkpoint protein Bub1 corrects mitotic aberrancy induced by human T-cell leukemia virus type 1 Tax	Sasaki M.	血液内科学
34	臨床血液	Diffuse large B-cell lymphoma expressing surface immunoglobulin heavy chain (Ig alpha) and lacking light chains	Ando M.	血液内科学
35	Blood	Severe pulmonary complications in Japanese patients after bortezomib treatment for refractory multiple myeloma.	Sasaki M.	血液内科学
36	Biochem Biophys Res Commun.	Beneficial effects of candesartan, an angiotensin II type 1 receptor blocker, on $\beta$ -cell function and morphology in db/db mice	Jiaqing Shao	代謝内分泌学
37	Arteriosclerosis, Thrombosis, and Vascular Biology	Repetitive Fluctuations in Blood Glucose Enhance Monocyte Adhesion to the Endothelium of Rat Thoracic Aorta	Kosuke Azuma	代謝内分泌学
38	Endocrine Journal	Long-Term Effect of Combination Therapy with Mitiglinde and Once Daily Insulin Glargine in Patients who were Successfully Switched from Intensive Insulin Therapy in Short-term Study	Naoki Kumashiro	代謝内分泌学
39	Synapse Apr 4:60(1):56-68,2006	Effects of repeated phencyclidine administration on adult hippocampal neurogenesis in the rat	Liu J.	精神医学
40	Brain Cogn 61(2006)189-194,2006	A quantitative near-infrared spectroscopy study: A decrease in cerebral hemoglobin oxygenation in Alzheimer's disease and mild cognitive impairment	Arai H.	精神医学
41	Journal of Gerontology 61(7)660-662,2006	Genetic association between USF1 and USF2 Gene polymorphisms and Japanese Alzheimer's Disease	Shibata N.	精神医学
42	J Neurosci Res	Decline of striatal dopamine release in parkin-deficient mice shown by ex vivo autoradiography.	Sato S.	神経学
43	NeuroReport	Expression levels of VEGF and its receptors in Parkinson's disease,	Wada K.	神経学
44	Stroke	Cilostazol protects against brain white matter damage and cognitive impairment in a rat model of chronic cerebral hypoperfusion.	Watanabe T.	神経学
45	Arch Dis Child Neonatal Ed	Plasma active ghrelin levels until 8 weeks after birth in preterm infants: relationship with anthropometric and biochemical parameters	Shimizu T	小児科学

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
46	J Gastroenterol	Effects of alpha-linolenic acid on colonic secretion in rats with experimental colitis	Shimizu T	小児科学
47	J Pediatr Gastroenterol Nutr	Neonatal transient eosinophilic colitis causes rectal bleeding in early infancy	Ohtsuka Y	小児科学
48	J Pediatr Surg: 41: 2052-2055, 2006	Laparoscopy-assisted transanal pull-through at the time of suction rectal biopsy: A new approach to treating selected cases of Hirschsprung's disease	Yamataka A.	小児外科学
49	Pediatr Surg Int: 22: 140-143, 2006	Diagnostic laparoscopy-assisted cholangiography in infants with prolonged jaundice.	Okazaki T.	小児外科学
50	J Urol: 176: 1806-1809, 2006	Review of 86 myelodysplasia patients with neurogenic bladder who had sigmoidocolocystoplasty followed-up for more than 10 years	Hayasi Y.	小児外科学
51	Acta Neurochir (Wein)148: 859-864, 2006	Analysis of potential diagnostic biomarkers in cerebrospinal fluid of idiopathic normal pressure hydrocephalus by proteomics	新井 一	脳神経外科学
52	J Neurosurg105: 459-464, 2006	Expression of the water-channel protein aquaporin 4 in the H-Tx rat: possible compensatory role in spontaneously arrested hydrocephalus	宮嶋 雅一	脳神経外科学
53	脳卒中の外科34: 114-117, 2006	高齢者破裂脳動脈瘤に対する瘤内塞栓術の治療成績	大石 英則	脳神経外科学
54	Hum Genet. 119: 611-616, 2006.	A large-scale genetic association study of ossification of the posterior longitudinal ligament of the spine	Horikoshi T	整形外科
55	J Orthop. Sci. 11: 248-253, 2006	Validation of the Japanese Society for Hand Surgery of the Hand Version of the Quick Disability of the Arm, Shoulder, and Hand (Quick DASH-JSSH) questionnaire	Imaeda T	整形外科
56	Polymer Engineering and Science 46: 1461-1467, 2006	Mechanical properties of the bioabsorbable polyglycolic acid-collagen nerve guide tube	Ichihara S,	整形外科
57	Experimental Cell Research 312: 3075-3083, 2006	Osteopontin is associated with nuclear kB gene expression during tail-suspension-induced bone loss	Ishijima M	整形外科
58	Key Engineering Materials 309-311: 1059-1062, 2006	Porous granules of beta-tricalcium phosphate composed of rod-shaped particles	Ioku K	整形外科
59	6th Asian Bioceramics Symposium 2006 Proceedings 1-4,2006	Porous beta-tricalcium phosphate composed of rod-shaped particles	Ioku K,	整形外科
60	Am J Med Genet A. 140: 1280-1284, 2006	Comprehensive screening of multiple epiphyseal dysplasia mutations in Japanese population	Itoh T	整形外科

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
61	J Immunol. 177: 6433-6439, 2006	Involvement of TNF-like weak inducer of apoptosis in the pathogenesis of collagen-induced arthritis	Kamata K,	整形外科
62	J Orthop Sci 11: 20-27, 2006	Randomized prospective study on prophylactic antibiotics in clean orthopedic surgery in one ward for 1 year	Kato D	整形外科
63	Arch Orthop Trauma Surg 126: 260-264, 2006	The effect of initial graft tension on postoperative clinical outcome in anterior cruciate ligament reconstruction with semitendinosus tendon	Kim SG	整形外科
64	Am J Med Genet A 140: 1143-7, 2006	A compound heterozygote harboring novel and recurrent DTDST mutations with intermediate phenotype between atelosteogenesis type II and diastrophic dysplasia	Maeda K	整形外科
65	J Arthroplasty 21:522-526, 2006	Early failure of modern metal-on-metal total hip arthroplasty using a Wagner standard cup	Maezawa K	整形外科
66	J Biological Chemistry 281: 3789-801	Oxidative stress causes heart failure with impaired mitochondrial respiration	Nojiri H	整形外科
67	Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg 40: 357-361, 2006	Fibroma of the tendon sheath that expanded into the radiocarpal joint with bony involvement	Nojiri H	整形外科
68	Arch Orthop Trauma Surg 126: 421-424, 2006	Original methods to move femoral head medially and caudally after rotational acetabular osteotomy, especially to use ceramic spacer	Nozawa M	整形外科
69	Key Engineering Materials 309-311: 1063-1066, 2006	Porous ceramics of beta-tricalcium phosphate composed of rod-shaped particles is highly biodegradable and expresses prominent osteoconductivity	Okuda T	整形外科
70	Genomics 88: 52-64, 2006	Activation of genes for growth factors and cytokine pathways late in chondrogenetic differentiation of ATDC5 cells	Osawa A	整形外科
71	The journal of Japanese Society of Clinical Sports Medicine 14: 219-227, 2006	Snowboard and skiboard injuries in recent years compared with ski injuries	Sakamoto Y	整形外科
72	Osteoporosis Japan 14: 264-267, 2006	Importance of the Understanding of the 25-hydroxyvitamin D Status for the Alendronate Treatment of Postmenopausal Osteoporosis	Sakamoto Y	整形外科
73	Journal Clinical Biomechanics 21: 617-622, 2006	Initial safe range of motion of the ankle joint after three methods of internal fixation of simulated fractures of the medial malleolus	Shimamura Y	整形外科
74	Proteomics 6: 4402-4409, 2006	Proteomic signatures corresponding to histological classification and grading of soft-tissue sarcomas	Hirohashi S	整形外科
75	Spine 31: 391-396, 2006	Prophylactic cephalosporin to prevent discitis in an ovine model	Walters R	整形外科

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
76	日整会誌 80: 307-315, 2006	疾患特異型、患者立脚型変形性膝関節症患者機能評価尺度 JKOM(Japanese Knee Osteoarthritis Measure).	赤居正美	整形外科
77	日整会誌 80: 316-320, 2006	運動器疾患に対する運動療法の効果に関する実証的研究 無作為化比較試験による変形性膝関節症に対する運動療法の効果.	赤居正美	整形外科
78	MB Medical Rehabilitation 63: 39-44, 2006	変形性膝関節症に対する歩行訓練の効果	池田 浩	整形外科
79	リハビリテーション医学 43: 218- 222, 2006	変形性膝関節症に対する大腿四頭筋訓練の効果に関するRCT.	岩谷力	整形外科
80	骨折 28: 383-388, 2006	鎖骨遠位端骨折に対するスコーピオンプレート固定—治療成績ならびに実験的考察—.	神田章男	整形外科
81	関東整災誌 37: 200—204, 2006	上腕骨近位端粉碎骨折の治療—足関節プレートの応用—.	金 成道	整形外科
82	臨整外 41: 739-747, 2006	変形性膝関節症に対する運動療法の効果	黒澤尚	整形外科
83	日整会誌 80: 933-941, 2006	変形性膝関節症に対する保存療法.	黒澤尚	整形外科
84	日本骨・関節感染症学会 20: 32-34, 2006	感染性手屈筋腱鞘炎の治療経験	小鹿寧之	整形外科
85	関東整形災害外科学会雑誌 37: 37-41, 2006	壊死性筋膜炎の5例—致死例の検討を中心に—.	小嶋智子	整形外科
86	オステオポロージス・ジャパン, 14: 264-267, 2006	血清25(OH)D値がビスフォスフォネート治療に与える影響について	坂本優子	整形外科
87	リウマチ科, 35: 339-346, 2006	中高齢者に対する運動療法の効果	桜庭景植	整形外科
88	整・災外科 49: 443-450, 2006	肩鎖関節脱臼の治療—保存療法と観血的治療の比較—	高澤祐治	整形外科
89	東日本整災会誌 18: 81-84, 2006	乾癬性脊椎炎により頸椎椎体圧潰を生じた一例.	武光真志	整形外科
90	整形外科 57: 603-607, 2006	上腕骨近位端3-partおよび4-part骨折に対する髓内釘の近位スクリューホール設置位置の検討.	武光真志	整形外科

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
91	自己血輸血 19:40-53, 2006	整形外科手術時の輸血合併症の中間報告	野沢雅彦	整形外科学
92	東日本整災会誌18: 160-165, 2006	脊髄損傷例の褥瘡から波及した化膿性股関節炎の治療経験.	羽生 亮	整形外科学
93	別冊整形外科49: 217, 2006	末梢神経損傷の治療—医原性損傷予防のために—.	藤巻有久	整形外科学
94	Hip Joint 32: 665-667, 2006	人工股関節置換術後の血中FDP D-dimer値の推移と術中ヘパリン投与の有用性.	前澤克彦	整形外科学
95	日本人工関節学会誌 36: 86-87, 2006	関節摺動面を金属対金属から金属対ポリエチレンに変更した人工股関節再置換例の血清Cr濃度の変化	前澤克彦	整形外科学
96	Pharma Medica vol.24.No.1, 2006	エリアにおけるリウマチ治療とステロイド性骨粗鬆症対	道野邦男	整形外科学
97	オステオポロージス・ジャパン 14: 321-322, 2006	振動版トレーニングが骨代謝および平衡機能に及ぼす影響	山中 誠	整形外科学
98	J Plast Reconstr Aesthet Surg 60: 655-658, 2007	Hemi-orbicularis oculi switch flap for upper eyelid defects.	Hayashi A	形成外科学
99	J Surg Res 137: 30-37, 2007	Recovery course of full-thickness skin defects with exposed bone: An evaluation by a quantitative examination of new blood vessels.	Koga Y.	形成外科学
100	順天堂医学	遠位端側神経縫合時における二重神経支配の可能性についての検討.	市田祐之	形成外科学
101	J Dermatol	Clinical trial of a laser device called fractional photothermolysis system for acne scars.	Hasegawa T	皮膚科学
102	J Immunol	Crucial commitment of proteolytic activity of a purified recombinant major house dust mite allergen Der p1 to sensitization toward IgE and IgG responses.	Kikuchi Y	皮膚科学
103	BBRC	Prolonged MHC class II expression and CIITA transcription in human keratinocytes.	Takagi A	皮膚科学
104	J Am Acad Dermatol	A nationwide survey of Trichophyton tonsurans infection among combat sport club members in Japan using a questionnaire form and the hairbrush method.	Shiraki Y	皮膚科学
105	J Immunol 178: 3288-3292, 2007	Involvement of C-C chemokine ligand 2-CCR2 interaction in monocyte-lineage cell recruitment of normal human corneal stroma.	Ebihara N	眼科学

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
106	Eye Contact Lens 33:70-73, 2007	Trends in microbial keratitis in Japan.	Toshida H	眼科学
107	Eye Contact Lens 33:65-69, 2007	Contact lens-induced infectious keratitis in Japan.	Inoue N	眼科学
108	Acta Oto-Laryngologica, 2006;126:739-745	Functional inferior turbinosurgery (FITS) for the treatment of resistant chronic rhinitis.	Katsuhisa Ikeda	耳鼻咽喉科学
109	Anticancer Res. 2006 :26(5B) :3781-3786.	Concurrent weekly docetaxel and hyperfractionated radiotherapy for advanced head and neck cancer.	Fumihiko Matsumoto	耳鼻咽喉科学
110	Tohoku J Exp Med 2006 :210(2):165-168.	Treatment of idiopathic gustatory rhinorrhea by resection of the posterior nasal nerve.	Yah Yee Ang	耳鼻咽喉科学
111	Radiat Med 25:8-13, 2007	Comparison of 4 MV photon surface dose among Varian, Siemens, and Elekta linear accelerators for tangential breast treatment: A phantom study.	Karasawa K	放射線医学
112	Gen Hosp Psychiatry 28: 478-484, 2006	Evaluation of the One-Question Interview for Depression in a Radiation Oncology Department in Japan.	Karasawa K	放射線医学
113	Radiat Med 24:687-689, 2006	Aneurysm of a systemic artery supplying the normal basal segments of the left lower lobe.	Kurosaki Y	放射線医学
114	日本周産期新生児学会誌	先天性小腸閉鎖の出生後外科的治療と出生前診断の関連	太田篤之、米本寿志、伊藤茂	産婦人科学
115	日本産婦人科学会誌	腹腔鏡下筋腫核出術における安全な手術主義の確立とその限界	北出真理	産婦人科学
116	日本産婦人科学会誌	境界型粘液性卵巣腫瘍もう腫を併発し大量の粘液性腹水を伴った腹膜偽粘液腫の一例	金田容秀、加塚有紀、薪田も恵	産婦人科学
117	Circulation Control	Intravenous and epidural administration of fentanyl suppresses endocrine response and urinary output of N-acetyl-B-Delucosaminidase during thoracotomy	Sonoda S	麻酔科学・ペインクリニック
118	The Journal of Obstetrics and Anesthesia	Birth outcomes after laparoscopic ovarian cyectomy; does the anesthetic technique matter?	Oshima M	麻酔科学・ペインクリニック
119	Cancer Chemo Pharmacol	Signal transduction through Substance P receptor in human glioblastoma cells: roles for Src and PKC	Yamaguchi K	麻酔科学・ペインクリニック
120	Esophagus3(4):189-195.2006	Size analysis of lymph node metastasis in esophageal cancer.diameter distribution and assessment of accuracy of preoperative diagnosis.	Kajiyama Y	上部消化管外科学

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。



## 2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
121	外科68(4):400-404.2006	食道癌に対する外科治療の適応と限界 生存解析からみた3領域リンパ節郭清手術の効果について	梶山美明	上部消化管外科学
122	Surg Oncol ;15(2):107-113.2006	Alvocidib (Flavopiridol) suppresses tumor growth in SCID mice with human esophageal cancer xenografts without inducing apoptosis	Shinsuke Sato	上部消化管外科学
123	The Journal of International Medical Research34: 307-315, 2006	Methylenetetrahydrofolate reductase C677T is not associated with expression of pyrimidine metabolic enzyme genes in colorectal cancer.	Takeda R	下部消化管外科学
124	Anti-Cancer Drugs17: 393-399, 2006	Effect of gastrectomy on the pharmacokinetics of 5-fluorouracil and gimeracil after oral administration of S-1.	Tsuruoka Y	下部消化管外科学
125	The journal of international medical research34: 390-396,2006	Genomic copy-number aberrations related to lymph-node metastasis of colon cancer.	Yaginuma Y	下部消化管外科学
126	Br J Surg	Clinical significance of immunohistochemically detectable lymph node metastasis in adenocarcinoma of the ampulla of Vater.	Mizuno T, Ishizaki Y, Ogura K, et al	肝・胆・膵外科学
127	Br J Surg	Conversion of elective laparoscopic to open cholecystectomy between 1993 and 2004.	Ishizaki Y, Miwa K, Yoshimoto J, et al	肝・胆・膵外科学
128	Arch Surg	Safety of prolonged intermittent pringle maneuver during hepatic resection.	Ishizaki Y, Yoshimoto J, Miwa K, et al	肝・胆・膵外科学
129	World J Surg	Effect of jejunal and biliary decompression on postoperative complications and pancreatic leakage arising from pancreatojejunostomy after pancreatoduodenectomy.	Ishizaki Y, Yoshimoto J, Miwa K, et al	肝・胆・膵外科学
130	臨床外科61巻3号 Page277-282	乳房温存療法ガイドライン	霞 富士雄	乳腺・内分泌外科学
131	臨床外科64巻3号 Page513-519	乳癌一診療に向けた最先端研究一乳房温存療法 整容性と根治性	霞 富士雄	乳腺・内分泌外科学
132	新医療 Page108-113	自治体アンケートから見たマンモグラフィ検診普及の現状	霞 富士雄	乳腺・内分泌外科学
133	順天堂医学52巻4号 Page546-558	今日のがん化学療法 乳癌の化学療法	齊藤光江	乳腺・内分泌外科学
134	医薬の門46巻6号 Page544-548	乳腺センター設立の経緯	齊藤光江	乳腺・内分泌外科学
135	医薬の門47巻1号 Page74-77	順天堂乳腺センターにおける診断	齊藤光江	乳腺・内分泌外科学

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
136	Journal of histochemistry & Cytochemistry, 54(3): 343~353, 2006	Alterations of Phosphorylation State of Connexin 43 during Hypoxia and Reoxygenation Are Associated with Cardiac Function.	Satoshi Matsushita, Atsushi Amano	心臓血管外科学
137	日本外科学会雑誌, 107(6):299-301, 2006	OFF PUMP CABG	天野篤	心臓血管外科学
138	胸部外科, 59(4): 277, 2006	再OPCABにおける剥離法.	天野篤	心臓血管外科学
139	Lung Cancer 54, 409-418, 2006	Carbonic anhydrase IX expression is associated with tumor progression and a poor prognosis of lung adenocarcinoma.	Konno H	呼吸器外科学
140	Cancer Sci 97(9): 928-32,2006	Novel ELISA system for detection of N-ERC/Mesothelin in the sera of mesothelioma patients.	Shiomi K	呼吸器外科学
141	Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 55(3);119-124,2007	Prospective analysis of depression and psychological distress before and after surgical resection of lung cancer.	Oh S	呼吸器外科学
142	感染症学雑誌	塩化メチルロザニリン(ゲンチアナ紫)の血液由来真菌(カンジダ属,トリコスボロン属)に対する <i>in vitro</i> 抗菌作用	近藤成美, 山田俊彦, 佐藤尚武, 他	臨床検査医学
143	THE JAPANESE JOURNAL OF ANTIBIOTICS 60(3): 153-160, 2007	IN VITRO ACTIVITY OF CEFOTIAM AGAINST OXACILLIN RESISTANT <i>Staphylococcus epidermidis</i> STRAINS	AYAKO NAKAMURA	臨床検査医学
144	日本化学療法学会雑誌 55(3): 211-219 2007	臨床材料からのメタロβ-ラクタマーゼ産生プログラム陰性桿菌の検出状況と薬剤感受性	三澤 成毅	臨床検査医学
145	pathol Int.	Human papillomavirus localization in cervical adenocarcinoma and adenosquamous carcinoma using in situ polymerase chain reaction:Review of the literature of human papillomavirus detection in these carcinomas.	小倉加奈子	人体病理病態学
146	Histopathology	Grading system of lymphatic invasion according to D2-40 immunostaining is useful for the prediction of nodal metastasis in squamous cell carcinoma of the uterine cervix.	卜部麻子	人体病理病態学
147	Am J Dermatopathol	A clinicopathological and immunohistochemical comparison of squamous cell carcinoma arising in scars versus nonscar SCC in Japanese patients.	上田晃子	人体病理病態学
148	Ann Hematol. 2006 Oct;85(10):689-704	PML-RARalpha and AML1-ETO translocations are rarely associated with methylation of the RARbeta2 promoter	Ohsaka A	輸血学
149	Cancer Res. 2007 Jan 15;67(2):684-94	Activation of integrin-linked kinase is a critical prosurvival pathway induced in leukemic cells by bone marrow-derived stromal cells	Ohsaka A	輸血学

計 149件

(注)1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	院長 梁 井 皎
管理担当者氏名	各部署責任者 (馬場子孝、安藤 進、勝又俊雄、大島純子)

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約		病院日誌類、 管理課 入院診療録 診療録管理室 外来診療録、X線写真 医事課、カルテ室	病院日誌類については、管理課において年度別に、手術記録を含む入院診療録については、患者別に、保管(順次マイクロ化保管)、外来診療録については診療科別に医事課担当で保管。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事部人事課	主に所属別、診療科別、
	高度の医療の提供の実績	事務部医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	学術支援課 事務部管理課	
	高度の医療の研修の実績	事務部医事課	
	閲覧実績	事務部管理課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医療連携室、 事務部医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	事務部医事課 資料室	
確規保則の第9条及び第11条各号に掲げる体制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理者 會田秀子 医療安全管理室長 川崎志保理 医療安全推進部長 小林弘幸	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染対策室長、堀 賢 感染対策室副室長、 李澤 康雄 平成12年9月1日設置	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室 平成12年4月1日 設置	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	サービス課 「患者さまご相談コーナー」	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室「順天堂医院医療安全管理マニュアル」	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室「順天堂医院医療安全管理マニュアル」 レ	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室「順天堂医院医療安全管理マニュアル」 レ	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室「順天堂医院医療安全管理マニュアル」	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	各所属長、院長 梁井 皎
閲覧担当者氏名	管理課長 安藤 進、 医事課長 勝又俊雄
閲覧の求めに応じる場所	会議室、

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	139 件
閲覧者別	医師	延 131 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 1 件
	地方公共団体	延 7 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	48.7 %	算定期間	平成18年4月1日～平成19年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	25,098 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	9,611 人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	5,000 人	
	D: 初診の患者の数	71,942 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第13-2)

規則第9条の23及び第11条各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	㊦(2名)・無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	㊦(6名)・無
② 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	㊦・無
・所属職員：専任(2)名 兼任(2)名 ・活動の主な内容： 医療安全ポケットマニュアル第3版(以下「マニュアル」という) 別添マニュアル参照 1. 医療安全管理指針、組織体制P3～19 2. 医療事故防止体制P20	
④ 当該病院内に患者からの相談に適切に応じる体制の確保状況	㊦・無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	㊦・無
・指針の主な内容：別添マニュアル参照 1. 医療安全管理指針P3～19 (1) 総則 (2) 組織体制 (3) 医療安全の確保を目的とした改善のための方策 (4) 安全管理のための職員研修の実施 (5) 医療事故発生時の対応方法 (6) 患者相談窓口の設置 (7) 安全な医療を提供するための院内規則・手順 (8) 本指針の閲覧 他	
⑥ 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 22 回
・活動の主な内容： 別添マニュアル参照 1. 医療安全管理指針 組織体制P4～9 2. 医療事故防止体制P20 5. 医療安全に関する報告書の流れP24	
⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 13 回
・研修の主な内容： 別添マニュアル参照 1. 医療安全管理指針 (4) 安全管理のための職員研修の実施 P13～16 別添「平成18年度医療安全に関する研修会一覧」	
⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・医療機関内における事故報告等の整備 (㊦)無 ・その他の改善のための方策の主な内容： 別添マニュアル参照 1. 医療安全管理指針 (3) 医療の安全確保を目的とした改善 のための方策P9～13 2. 医療事故防止体制P20 5. 医療安全に関する報告書の流れP24 別添「医療安全に関する報告書」	

# ① 医療安全管理指針

## 1. 総 則

### 1) 安全管理指針の目的

医療は、患者と医療従事者の信頼関係、医療に対する信頼の下で、患者の救命や健康回復を最優先として行われるべきものであり、患者を中心とした安全で質の高い医療を提供しなければならない。この実行のために全ての医療従事者は医療安全に取り組むものとする。

このため本指針は、順天堂大学医学部附属順天堂医院における医療安全管理に関する基本方針を定めるとともに、院内の責任体制を明確にし、医療安全管理の具体的な推進方策について定めることを目的とする。

### 2) 医院における医療安全管理の基本方針

安全な医療を提供するためには、医療従事者一人ひとりが患者の安全を守る意識を持つことが不可欠ではあるが、近年の医療の高度化・複雑化等を背景に、医療従事者個人の努力に依存した医療安全管理は困難になってきている。このため、当院においては医療安全管理をシステム化し、院長、医療安全管理を統括する医療安全管理室室長、医療安全管理者、医療安全管理委員会、リスクマネジメント全体委員会を中心として有機的な体制を構築し、総合的管理の一環として組織横断的に取り組む。

また、常により質の高い安全な医療提供体制を構築するのみならず、患者に対する接遇に留意し、計画・実施・評価・改善の一連の過程において継続的な見直しを行うことにより、医療現場の状況の変化に適切かつ迅速に対応した医療安全管理を実施する。

さらに、医療安全管理に資する情報を本人と職員全体で共有し、組織における安全文化を醸成するため、発生した医療事故、ヒヤリ・ハット事例情報等の分析結果や、医療安全管理委員会等で検討・決定された事故予防対策等を、速やかに職員にフィードバックするとともに、各種の関連する研修会

を通じて、医療安全管理に関する職員の教育や啓発に努めるものとする。

### 3) 医療安全管理における医院職員の責務

#### (1) 院長の責務

院長は、医院における最高責任者として、医療安全管理に必要な組織体制を整備し、これを指揮・監督する。具体的には、本指針に基づいて円滑かつ効果的に医療安全管理が遂行できるよう、医療安全管理活動の具体的目標や予算の策定、職員の能力や適性に応じた人事・処遇、職場環境の整備等を行い、医院を一つの組織体として適正に管理する。

#### (2) 個々の職員の責務

全ての職員は、患者の安全を最優先し、安全に医療を提供する責務があることを十分に認識して業務に当たる。このため、職員は医療従事者としての基本的な倫理観や知識・技術の継続的な習得を行い、患者の安全確保に努める。

また、職員は、チーム医療の担い手としての役割と責任を果たすために、日ごろから緊密な協力体制を築き、本人の医療安全管理活動へ積極的かつ主体的に参加する。

## 2. 組織体制

医院における医療安全管理ならびに事故発生時の緊急対応について、医院の組織全体が効果的・効率的に機能するよう、以下の役職および組織等を設置する。

#### 1) 医療安全推進部（2007年4月組織変更）

病院の安全管理の強化のため、平成19年4月医療安全推進部が発足した。医療安全推進部は、健康管理室・感染対策室・医療安全管理室から構成されている。検討案件の性質により3室が適宜連携して問題解決にあたる。

#### 2) 医療機器安全管理責任者（2007年4月、医療法改正により配置）

医療機器安全責任者1名をおき、放射線担当者1名、医療機器担当者1名、医療材料担当者1名が協力して医療機器の

安全使用に関する業務を担う。

### 3) 医薬品安全管理責任者（2007年4月、医療法改正により配置）

医薬品安全管理責任者1名を配置し、医薬品の安全使用に関わる業務を担う。

#### (1) 医療安全推進部・各管理室の構成

①医療安全推進部・各管理室には以下の各号に掲げる者とする。

- i 管理室室長
- ii 管理室副室長
- iii 医療安全管理者（医療安全管理室）
- iv 事務職員
- v その他必要な職員

②室長，副室長，医療安全管理者は院長が任命する者をもって充てる。

③医療安全管理室，感染対策室，健康管理室の職員は院長が任命する。

#### (2) 医療安全管理室の役割

医療安全管理室は，次に掲げる各号についてその役割を担う（感染対策室，健康管理室の役割の詳細は各室マニュアルに記載）。

①医療の安全を確保するための改善方策に関すること

- 「インシデントレポート」による情報の収集・分析
- 医療事故予防策，再発防止策の立案，実施，評価および見直し
- 安全な医療提供のためのガイドラインやマニュアルの策定に関すること
- 患者からの苦情・要望等の分析および医療安全管理への活用

②医療安全管理のための職員への企画・運営および院内広報等の企画・実施

③医療事故発生時の対応に関すること

- 診療録・看護記録等への記載状況についての確認・指導
- 患者への診療や説明等の対応状況についての確認・指導



- ④医療安全管理委員会の円滑な運営に関すること
  - 医療安全管理委員会に対する議題の提案
  - 医療安全管理委員会の資料作成，議事録作成等の庶務
- ⑤医療安全管理に関する院内の連絡調整
- ⑥その他医療安全管理に関する業務

#### 4) 医療安全管理委員会

##### (目的)

医院における医療事故防止の取り組みを効果的に推進し、医院全体および各部門における医療事故防止体制の整備を図るために必要な事項ならびに院長の諮問事項を審議献策し、医療従事者への周知を図るとともに実施状況を必要に応じて調査，見直しを行う。

##### (委員会の構成)

- ①医療安全推進部長
- ②医療安全管理室室長
- ③感染対策室室長
- ④医療安全管理室副室長
- ⑤医療安全管理者
- ⑥総医局長
- ⑦RM全体委員会委員長
- ⑧看護部長
- ⑨薬剤部長
- ⑩事務部長
- ⑪その他委員会が必要と認めたもの若干名

##### (委員会の開催)

原則として月1回開催する。

##### (情報の取扱い)

- ①委員は，その職務に関して知り得た情報について，既に公表されているものを除き，院長の許可なく他に漏らしてはならない。
- ②委員は，患者のプライバシーを特に尊重しなければならない。
- ③情報の取扱いは関係する職員すべてに適用されるものとする。

## 5) リスクマネジメント全体委員会

### (目的)

医院全体の安全管理に関する連絡・意見交換を行い，各部門における医療安全活動および問題点の報告等により，適正かつ効率的に事故防止を図る。

### (委員会の構成)

委員長：1名

副委員長：医療安全管理者 他2名

RM委員：医師，薬剤師，看護師，放射線・臨床検査技師，事務職員など，各診療科・部門より若干名とし，部門から選任された職員から責任者を置く。

その他委員会が認めたもの若干名

### (委員会の開催)

委員会は原則として月1回開催する。

### (小委員会の設置)

委員会は必要に応じて小委員会を設置することができる。小委員会の委員長は委員会の委員長が任命する。

### (小委員会の任務)

各診療科・部門から選任されたRM委員は，必ず小委員会に所属し，医療事故の原因，防止方法に関する検討・提言，医療安全管理委員会，委員会活動に対する提案を行う。

### (RM委員の役割と業務)

- ①部門から選任されたRM委員は，部門の管理者を補佐し，医療安全対策を推進する。
- ②部門における「医療安全に関する報告書」の提出促進・収集・分析。
- ③部門の事故予防策，再発防止策の検討・推進。
- ④途中就任した医療従事者には，安全指針を周知する。
- ⑤病院全体の医療安全管理に関する事項を当該部門の委員会等に報告し，各医療従事者に周知する。周知状況を医療安全管理室に報告する。

## 6) 医療安全を推進する担当者（リスクマネジャー）

### (1) リスクマネジャーの配置

各部門・部署の管理者を補佐し，医療安全管理活動を推進

する者として、各部門、部署にリスクマネジャーを配置する。リスクマネジャーは各部門・部署の責任者が任命する。

## (2) リスクマネジャーの役割

リスクマネジャーは、次に掲げる各号についてその役割を担う。

- ①各部門・部署における「インシデントレポート」の提出の促進・収集・分析。
- ②各部門・部署における事故予防策、再発防止策の検討・推進。
- ③医院全体の医療安全管理に関する各部門・部署の意見のとりまとめ、提案。
- ④各部門・部署の職員等への周知と周知状況の把握。

## (3) リスクマネジャー小委員会

医療安全管理委員会、医療安全管理室と連携して、各部門・部署における安全対策を円滑に進めるための討議を行うことを目的として、リスクマネジメント小委員会および全体委員会を定期的を開催する。

## 7) SE対策チーム

(チームの構成)

委員長：医療安全推進部長

委員：医療安全管理室長，副室長，医療安全管理者，感染対策室長，他1名

医師：内科系，外科系，精神・神経系若干名

その他，チームが必要と認めたもの若干名

(チームの業務内容)

院長，関連診療科または部門の求めにより，医療事故等の原因究明が適切に実施されるよう早急に調査・分析を行い，患者や家族への診療や説明などの対応状況ならびに診療録や看護記録などへの記載状況について確認・指導する。

## 8) SE対策委員会

(委員会の構成)

SE対策チーム，関係診療科医局長，担当医，関係看護師長，看護師，管理課職員，その他随時

#### (委員会の開催)

重大な問題が生じた場合、または患者や家族からの苦情により、当該診療科・部門のみでは対応が難しい場合に随時開催する。

#### (委員会の審議)

事故等の原因究明、対応策等を策定し、必要があれば医療安全管理委員会で協議し、事例調査委員会に報告するとともに、医療安全対策への活用を行う。

### 9) 事例調査委員会

#### (委員会の構成)

委員長：院長

委員：副院長，総医局長，医療安全推進部長，医療安全管理室長，医療安全管理者，感染対策室長，事務部長，顧問弁護士，管理課長，その他随時

担当部署：教授，先任准教授，医局長，担当医，担当師長，その他随時

#### (委員会の業務内容)

- ①重大事故発生後，関連部署職員が集まり事故の概要，原因について時系列で詳細に分析し，患者・家族への対応，外部機関への対応を早急に検討する。
- ②事故発生の診療科等に医療事故防止の具体的指導を行う。

## 3. 医療の安全確保を目的とした改善のための方策

医療の安全確保を図るためには、各々の業務を医療安全の観点から見直し、その結果に基づいて当院全体で医療安全管理に取り組むべき必要がある。標準化、統一化、規則化の推進、正確で効率的な情報管理を促進するとともに、策定された安全対策を計画・実施・評価という一連の過程から、さらなる改善活動を通じて常に見直していく必要がある。当院における医療事故等の報告体制は、こうした改善活動の一環として重要である。さらに、当院の医療安全管理活動を評価し、改善につなげていくために、内部評価、外部評価を実施する。

## 1) 医療事故等に関する報告制度

### (1) 報告制度の目的

医院では、医療事故につながる可能性のある問題点を把握して効果的な安全対策を講じるため、全職員を対象にインシデントレポート事例の報告を制度化し、その収集を促進するとともに、収集した情報を活用して組織全体で継続的な業務改善に取り組む。

### (2) 報告制度の対象とする事例

報告制度で対象とする事例は、以下のとおりとする。

#### ①医療事故（アクシデント）

医療に係わる場所で、医療の全過程において発生するすべての人身事故一切を包含し、医療従事者が被害者である場合や廊下で転倒した場合なども含む。

#### ②ヒヤリ・ハット（インシデント）

日常診療の場で、誤った医療行為などが患者に実施される前に発見されたもの、あるいは、誤った医療行為などが実施されたが、結果として患者に影響を及ぼすに至らなかったもの。

### (3) 報告経路と報告方法

①医療事故ならびにヒヤリ・ハット事例を体験または発見した職員は、その概要をインシデントレポートに記載し、翌日までに上司および当該リスクマネジャーに報告する。

②当該リスクマネジャーは、提出された報告書の内容を確認し、当該部門・部署の管理者に報告する。

③部門・部署の管理者は必要に応じ、リスクマネジャーに調査・分析を指示する。

④リスクマネジャーは、調査・分析の結果を部門・部署の管理者に報告するとともに、報告書を医療安全管理室に提出する。調査・分析に時間を要する場合は、検討途上であっても、報告書は第一報として24時間以内に医療安全管理室に提出する。

⑤医療安全管理室は、一定期間内に提出されたインシデントレポートを集計し、所定の期日ごとに医療安全管理委員会およびリスクマネジャー全体委員会で報告する。

#### (4) 重大な医療事故の場合の報告

重大な医療事故が発生した場合には、以下に定める手続きに従って報告を行う。

##### ①対象となる医療事故

- i 当該行為によって患者が死亡または死亡に至る可能性がある場合
- ii 当該行為によって患者に重大もしくは不可逆的傷害を与え、または与える可能性がある場合
- iii その患者等から苦情を受けた場合

##### ②報告経路と報告方法

- i 重大な医療事故発生時には、直ちに当該リスクマネージャーに報告する。報告を受けたリスクマネージャーは、医療上必要な指示を与え、各部門・部署の責任者を經由して速やかに院長および医療安全管理室長に報告する。また、緊急を要する場合にはひとまず口頭で報告し救命措置の遂行に支障を来たさない範囲で遅滞なく書面による報告を行う。
- ii 患者の生死に関わる重大かつ緊急な場合は、上記経路を省略して院長に直接報告することができる。

#### (5) 報告書の分析

医療安全管理室は、提出されたインシデントレポートから介入のレベルを決定し、当該部門・部署担当のリスクマネージャーと連携し、事例の分析・対処にあたる。

複数部門・部署間に関連する問題、本院全体の医療の質に関わる問題などは医療安全管理室ならびに医療安全管理者が中心となって事例の分析にあたる。医療安全管理室は事例分析と策定した事故予防策案ならびに再発防止策案を医療安全管理委員会に報告する。

#### (6) 事故予防策・再発防止策の検討と決定

医療安全管理委員会は医療安全管理室からの報告に基づいて、分析結果の妥当性、リスクの重大性、リスク予測の可否、システム改善の必要性、事故予防策ならびに再発防止策等について協議する。

## **(7) 事故予防策・再発防止策の職員への周知徹底実施**

医療安全管理室は、医療事故およびヒヤリ・ハット事例の分析・実施・評価結果や、医療安全管理委員会の協議に基づいて決定された事故予防策・再発防止策について、リスクマネジメント全体委員会で報告した後各部門・部署の責任者およびリスクマネジャーを通じて全員に周知・徹底する。

また、定期的な職員研修の実施、ニュースレター等により、周知徹底を図る。

## **(8) 事故予防策，再発防止策の実施状況の調査・評価と継続的な改善活動**

医療安全管理室は、事故予防策や再発防止策の実施状況を定期的に調査・評価し、必要に応じた見直しを継続的に行う。

なお、事故予防策や再発防止策の調査・評価結果や見直しに関する、医療安全管理委員会への報告等の手続きについては、「(5) 報告書の分析」, 「(6) 事故予防策・再発防止策の検討と決定」に準ずる。

## **(9) リスクマネジャーとの連携**

医療安全管理室は、報告書の分析・評価、事故予防策・再発防止策の検討およびその実施状況の調査等に当たっては各部門・部署のリスクマネジャーと連携してこれを行う。

## **(10) 診療録への記載**

医療事故が発生した場合には、その内容と、患者や家族への説明など事故発生時の対応状況を診療録、看護記録等に正確に記載する。

## **(11) 報告者の保護**

インシデントレポート報告者に対し、報告があった事実のみで、正当な事由なく不利益な処分を行わない。また、医療事故やヒヤリ・ハット事例について本報告制度によって職務上知りえた者は、その内容を正当な事由なく他の第三者に告げてはならない。

## **2) 医療の安全確保を図るためのその他の方策**

### **(1) 標準化・規則化等の推進**

医療の質の向上と安全性を高めるためには、医療行為等の作業手順の統一化、入院時診療計画（クリニカルパス）の活

用、物品の保管や配置等の統一化等によって標準化を図るとともに、院内における業務活動については可能な限り規則化し、その遵守を徹底することが重要である。また、高度化・複雑化する医療において、適切な診療情報管理、情報伝達を行うため、情報管理手法の統一化や、情報システムの導入・活用を推進する。

医院では、業務活動の標準化、規則化等を推進するため、各部門・部署における業務マニュアルを整備するとともに、医療安全管理にとって重要な規則や手順等は院内規則・手順として明記し、その内容の周知徹底を図る。また各業務マニュアルおよび院内規則・手順は、適宜評価・見直しを行い、現場の安全と医療の質をより向上させるものとしなければならない。

## (2) 医療安全管理活動の評価

### ①内部評価活動

医療安全管理室は、医院における医療安全管理活動の成果を評価し、一層の改善を行うため、日常的な院内の巡回等を活用して、以下の事項について内部評価活動を行う。

- i 診療録や看護記録等の記載状況
- ii 業務マニュアル等の整備、見直し状況
- iii 本指針および各種マニュアルの遵守状況
- iv ヒヤリ・ハット、医療事故報告の活用状況

### ②外部評価の活用

当院の安全管理上の問題点について、外部からの評価によって明らかにすることを目的として、(財)日本医療機能評価機構による病院機能評価、他の医療機関との相互評価など、第三者による評価を積極的に活用する。

## 4. 安全管理のための職員研修の実施

医療安全管理に関する基本的な考え方や、医療事故予防・再発防止の具体的な方策を職員に周知徹底することにより、個々の教職員の安全に対する意識を高め倫理意識や安全文化を醸成し、安全に業務を遂行するための能力の向上を図ることを目的として職員研修を実施する。



## 1) 医療安全管理室の役割

### (1) 研修の実施

医療安全管理室は、医療安全管理に関する以下の研修を計画し、実施する。

#### ①医療機関全体に共通する医療安全管理に関する研修

目 的：医療安全管理に関する基本的な考え方を理解するとともに、リスク感性および医療安全に関する個々の責務に関する啓発を図る。

受講対象：全職員

開催回数：年12回

#### ②新規採用者に対する医療安全管理に関する研修

目 的：病院の理念と医療安全管理に対する基本的な考え方を理解するとともに、医療安全を確保するために遵守しなければならない事項に関する知識を修得する。

受講対象：新規採用者

開催回数：年2回（新規採用者研修の全体研修の一部として実施）

#### ③リスクマネージャーの研修

目 的：リスクマネージャーの役割を理解し、具体的な活動を行う上での知識、技能を修得する。

受講対象：リスクマネージャー

開催回数：年2回程度（全該当者が受講できるように調整）

#### ④臨床研修医の研修

目 的：医師の業務を理解し、具体的な業務を行う上でのモラル、知識、技能を修得する。

受講対象：臨床研修医、医師

開催回数：年2回程度（全該当者が受講できるように調整）

### (2) 各部門・部署への支援

医療安全管理室は、各部門・部署が医療安全管理に関する研修を実施する際には、必要に応じて研修計画への参加や講師派遣などの協力を行うとともに、各部門・部署における研修の実施状況を把握し、積極的な研修実施を促す。

### (3) 研修参加の促進

医療安全管理室は、リスクマネージャーと連携し、研修への職員の積極的な参加を促す。

## 2) 各部門・部署の役割

### (1) 研修の実施

各部門・部署は、その管理責任において、職員の職種、部門・部署、職位にふさわしい安全管理能力を得られるよう、以下のような研修を計画し、実施する。

#### ①新人研修

新規採用者に対する研修に加え、新人に対しては、各部門・部署ごとに、医師、看護師などが専門業務を行う上で必要とされる基本的な知識・技術の実践を含めた研修を行う。

#### ②各部門・部署単位での医療安全管理に関する研修

各部門・部署は、専門業務の理解、安全管理の徹底、業務改善への意識付けを行うための研修を実施する。配置転換に伴う転入者に対する研修を各部門・部署単位で必要に応じて実施する。

### (2) 外部研修への派遣

各部門・部署は、職員の職種、部門・部署、職位にふさわしい安全管理能力を得られるよう、必要に応じて外部研修の活用を行う。

## 3) 医療安全管理者、医療安全管理室職員の研修

院長は医療安全管理者、医療安全管理室職員が医療安全管理に必要な能力確保を図るために、外部研修の派遣など必要に応じて学習の機会を提供する。また医療安全管理者、医療安全管理室職員は、自ら医療安全管理に関する情報を幅広く収集し、院外での研修会等に積極的に参加することにより、知識・技能の向上に努める。医療安全管理者は、院内・外の研修や情報収集等により、医療事故やヒューマンエラーに対する正しい知識を持ち、安全管理に関わる病院の管理を適正に行うよう努める。

#### 4) 研修の実施記録

医療安全管理室および研修を実施した部門・部署は、医療安全管理に係わる職員研修の実施内容を所定の方法で記録する。その記録は医療安全管理室で保管する。

### 5. 医療事故発生時の対応方法

医療事故発生時には、患者の究明を最優先して、誠心誠意治療に専念するとともに、事故の内容を明らかにし、医療従事者としての説明責任を適切に果たすために、患者・家族等に誠実に説明する。また、事故の再発防止策を早期に検討し職員に周知徹底する。

#### 1) 初動対応

##### (1) 患者の安全確保

医療事故が発生した場合は、患者の安全確保を最優先課題とし、医師、看護師等の連携の下、迅速な救命救急処置を行う。事故発生部署の職員だけでは十分に対応できない場合は早急に他の診療科や専門医の応援を求め、病院の総力をあげて対応する。

他院への転送が必要な場合は、患者・家族に承認を得た上で速やかに転送する。

##### (2) 患者に使用した薬剤・器具等の保管

事故発生前後に当該患者に使用した薬剤、注射器等は、事実確認および事故発生要因の検討に活用するために現状を保存しておく必要があるため、廃棄せず、保管する。また、使用した医療機器等の設定値についても、同様の理由により現状を保存する。現状保存の期間、方法については院長が医療安全管理者および事故発生部門・部署の責任者と相談し、決定する。

##### (3) 事実経過の正確な記録

医療事故発生前後における事実経過については、事実確認および事故発生要因の検討に活用するため、診療録、看護記録等に正確に記録する。

## 2) 医療事故の報告

医療事故発生時の報告については、「3. 1) 医療事故等に関する報告制度」に定める手続きによる。

## 3) 患者・家族等への説明

### (1) 患者・家族等への説明

事故発生後、救命措置の遂行に支障を来たさない限り可及的速やかに、患者本人・家族等への説明を担当する職員を決定し、事故の状況、現在実施している回復措置、その見通し等について、誠意を持って説明する。患者・家族等の要望および患者の状態の変化等に応じて、その時々状況が理解できるように追加説明を行う。

### (2) 説明内容の記録

説明を行った事実および説明の内容については、説明を行った者が診療録等に明記しておく。

## 4) 警察への届出

医療過誤により死亡または傷害が発生した場合またはその疑いがある場合は、院長は速やかに所轄警察署（本富士警察署）に届出を行うことがある。

## 5) 事故の再発防止

医療事故発生後、医療安全管理室、医療安全管理委員会等において、事故の再発防止について検討し、再発防止策を策定し、職員全員に徹底する。

## 6) 事例調査委員会の設置・招集

院長は、自らまたは医療安全管理委員会の審議に基づき医療事故の事実調査、患者・家族等への対応、外部関係機関への対応、医事紛争への対応、再発防止策の検討等を目的として、必要に応じて事例調査委員会を設置・招集することができる。

## 7) 重大事故発生時の施設内職員および他の患者への対応

重大事故発生後、速やかに組織としての方針を決定し、全

職員に事故発生の実態と経過を説明することを基本とする。説明はあらかじめ準備した資料に基づいて行う。その際、部署・患者・事故当事者等が特定されないように十分留意する。

他の患者への対応は、説明する範囲（病室、当該部署、施設全体）と内容を組織の対応方針に基づき決定する。

#### 8) 重大な事故に関わった職員への対応

事故により重大な結果を招いた場合、当事者となった職員へは適切な配慮や長期的な支援が必要である。医療のプロセス・システムには、誰もが事故当事者となりうる危険性が潜んでいる。個人を責めるのではなく、医療のプロセス・システム全体に策を講ずることで再発防止を図る、という考え方を基本とする。職員へのサポートには、上司（直属、所属長、院長）によるサポート、同僚によるサポート、家族によるサポートなどがある。人・組織・機能を活かした支援体制を整え、当事者の状況に応じた支援内容を検討し、実施する。

### 6. 患者相談窓口の設置

本人に寄せられる患者の苦情等について迅速に対応するとともに、患者の意見や期待を聴き、医院の医療安全管理に積極的に活用し、病院運営全般に反映させるため、また本院の情報公開に資するため、相談窓口を設置し対応する。

#### 1) 患者相談窓口の体制

患者相談窓口を設置し、患者・家族等からの相談に対応する担当者を配置する。

#### 2) 患者相談窓口の業務

徹底するとともに、相談を行ったことにより患者や家族などが不利益を受けないよう配慮しなければならない。

#### 3) 患者相談窓口に関する院内掲示

患者相談窓口担当者は、患者相談窓口の活動の趣旨、設置場所、対応時間等について、病院受付、待合室、病室等における掲示や、入院時の案内等を通じて、患者・家族等に幅広

く案内するよう努める。

## 7. 安全な医療を提供するための院内規則・手順

医院では安全管理のための重要な規則や手順を以下のように決定し周知している。チーム医療の中で、これらの規則・手順が尊重され守られ、また評価されることは、患者安全を確保する上で極めて重要である。

- 患者確認のルール
- 誤薬防止のための基本ルール
- 輸血に関する事故予防マニュアル
- 化学療法実施マニュアル
- インスリン指示の標準
- 転倒・転落事故予防マニュアル
- 静脈血栓塞栓症予防マニュアル

## 8. 本指針の閲覧

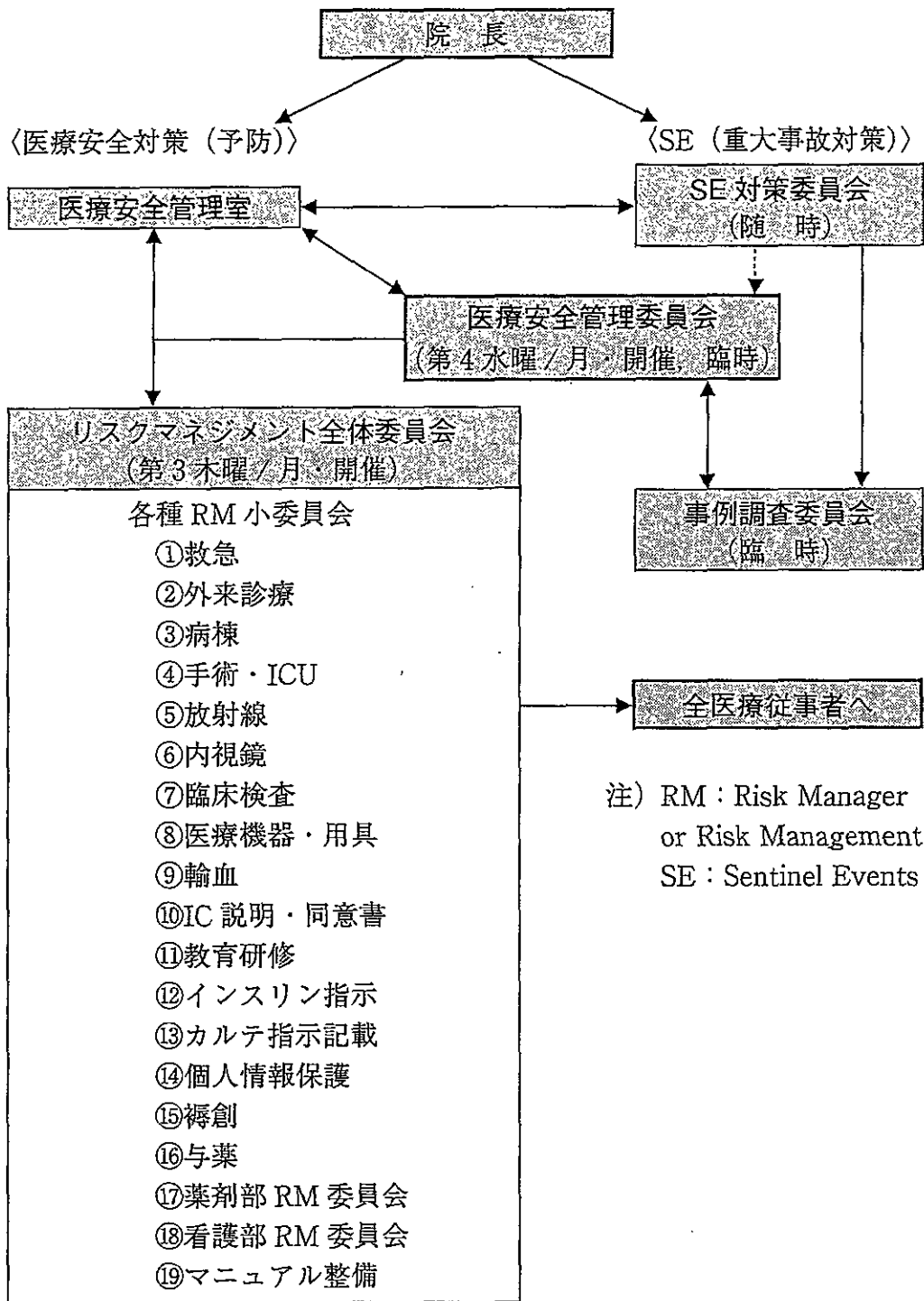
本指針は、患者及び家族等から閲覧の求めがあった場合には、これに応じる。また、本指針についての照会には、医療安全管理室が対応する。

## 9. 付 則

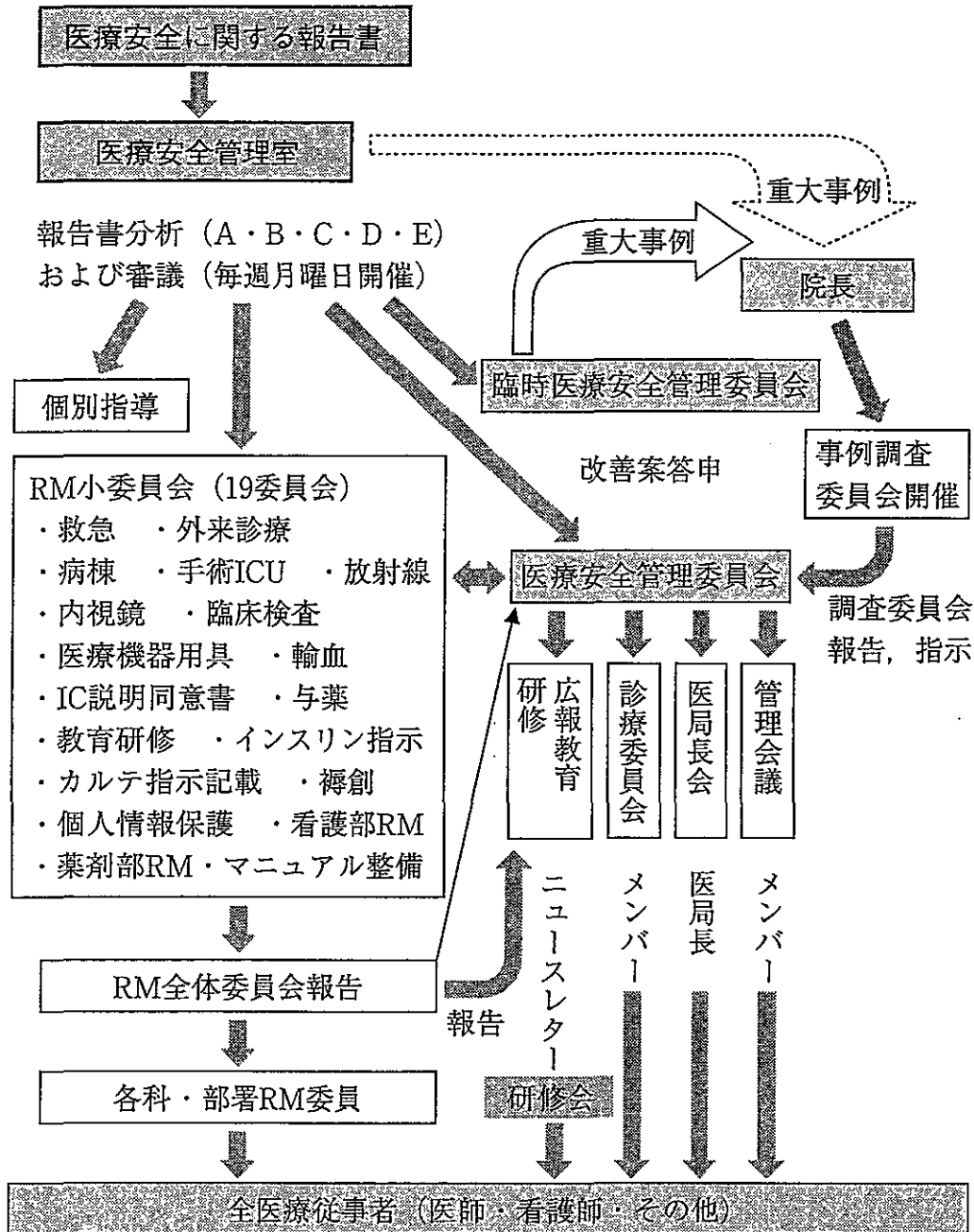
医療安全管理委員会は、少なくとも毎年1回以上、本指針の見直しを議事として取り上げ、改正を検討する。

(2007.7.25)

## ② 医療事故防止体制



# ⑤ 医療安全に関する報告書の流れ





## 平成18年度「医療安全に関する研修会」

	開催日時(場所)	プログラム	参加人数
1	平成18年4月24日(月) (有山記念講堂) 午後5時30分 ↓ 午後6時10分	1. 行動制限の落とし穴 講師 会田 秀子(医療安全管理者、医療安全管理室課長補佐) 2. 実施すべき基本的な感染症対策 手指衛生・標準予防策を中心に 講師 堀 賢 (感染対策室長、呼吸器内科講師)	798人
2	平成18年5月26日(金) (有山記念講堂) 午後5時30分 ↓ ↓ 午後6時10分	1. 順天堂医院及び本郷キャンパスは敷地内禁煙になります 講師 瀬山邦明(禁煙推進委員会委員長、本郷キャンパス健康管理室産業医 呼吸器内科助教授) 2. 行動制限の落とし穴 講師 会田 秀子(医療安全管理者、医療安全管理室課長補佐) 3. 実施すべき基本的な感染症対策 手指衛生・標準予防策を中心に 講師 池田恵 (感染対策室ICP)	612人
3	平成18年6月22日(木) (有山記念講堂) 午後5時30分 ↓ 午後6時10分	1. 順天堂医院及び本郷キャンパスは敷地内禁煙になります 講師 瀬山邦明(禁煙推進委員会委員長、本郷キャンパス健康管理室産業医 呼吸器内科助教授) 2. 行動制限の落とし穴 講師 会田 秀子(医療安全管理者、医療安全管理室課長補佐) 3. 実施すべき基本的な感染症対策 手指衛生・標準予防策を中心に 講師 李澤 康雄 (感染対策室ICP)	369人
4	平成18年7月21日(金) (有山記念講堂) 午後5時30分 ↓ 午後6時10分	1. 災害の備え 講師 鈴木周二(施設部次長、自衛消防隊副隊長) 2. 接遇マナー -皆様の声より- 講師 小瀬良愛子(サービス課師長)	643人
5	平成18年9月15日(金) (有山記念講堂) 午後5時30分 ↓ 午後6時10分	1. 災害の備え 講師 鈴木周二(施設部次長、自衛消防隊副隊長) 2. 接遇マナー -皆様の声より- 講師 小瀬良愛子(サービス課師長)	328人
6	平成18年10月23日(月) (有山記念講堂) 午後5時30分 ↓ 午後6時10分	1. 災害の備え 講師 鈴木周二(施設部次長、自衛消防隊副隊長) 2. 接遇マナー -皆様の声より- 講師 小瀬良愛子(サービス課師長)	506人
7	平成18年11月30日(木) (有山記念講堂) 午後5時30分 ↓ 午後6時10分	1. 適正検体採取のために-感染症診療の基本- 講師 近藤成美 (臨床検査医学科講師、感染対策室ICD) 2. 検査における接遇マナー:放射線科 講師 尾崎 裕 (放射線科講師・医局長) 3. 本郷キャンパス敷地内禁煙と職員・学生の禁煙アンケート調査結果 講師 唐島孝彰 (禁煙推進委員会委員、管理課主任)	535人
8	平成18年12月13日(水) (有山記念講堂) 午後5時30分 ↓ 午後6時10分	1. 適正検体採取のために-感染症診療の基本- 講師 近藤成美 (臨床検査医学科講師、感染対策室ICD) 2. 検査における接遇マナー:放射線科 講師 尾崎 裕 (放射線科講師・医局長)	333人
9	平成19年1月22日(月) (有山記念講堂) 午後5時30分 ↓ 午後6時10分	1. 適正検体採取のために-感染症診療の基本- 講師 近藤成美 (臨床検査医学科講師、感染対策室ICD) 2. 検査における接遇マナー:放射線科 講師 尾崎 裕 (放射線科講師・医局長)	369人
10	平成19年2月20日(火) (有山記念講堂) 午後5時30分 ↓ 午後6時10分	1. 抗菌薬適正処方マニュアルについて 講師 近藤成美 (感染対策室ICD、臨床検査医学科講師) 堀 賢 (感染対策室長、呼吸器内科講師) 2. リスクマネジメントと接遇 講師 小林弘幸(医療安全管理室長、病院管理学教授)	270人
12	平成19年3月22日(木) (有山記念講堂) 午後5時30分 ↓ 午後6時10分	1. 抗菌薬適正処方マニュアルについて 講師 近藤成美 (感染対策室ICD、臨床検査医学科講師) 堀 賢 (感染対策室長、呼吸器内科講師) 2. リスクマネジメントと接遇 講師 小林弘幸(医療安全管理室長、病院管理学教授)	142人
13	平成19年3月23日(金) (有山記念講堂) 午後5時30分 ↓ 午後6時10分	1. リスクマネジメントと接遇 講師 小林弘幸(医療安全管理室長、病院管理学教授) 2 講師 伊藤澄信(CCPセンター長、治験事務局 臨床薬理学客員教授)	252人

## 平成18年度「医療安全に関する研修会」部分研修

	開催日時(場所)	対象	主催	プログラム	参加人数
1	平成18年4月3日(月) (有山記念講堂) 午後1時10分 ↓ 午後1時40分	新入職員	人事部	平成18年度新人職員講習会 「リスクマネジメントについて」	235人
2	平成18年4月3日(月) (有山記念講堂) 午前11時05分 ↓ 午後0時00分	臨床研修 医(3病院 合同)	臨床研修セ ンター	平成18年度臨床研修医オリエンテーション 「リスクマネージメント」 (個人情報保護法を含む) 「インフォームド・コンセント」	68人
3	平成18年6月19日(月) (有山記念館講堂) 午後5時30分 ↓ 午後6時00分	医師	RM全体委 員会、教育 研修関連R M小委員会	異状死の届出に関する研修会 講師 奥村徹(救急科長・助教授、救急部長)	93人
4	平成18年6月26日(月) (10号館1階カンファレンスルーム) 午後5時30分 ↓ 午後6時00分	医師	RM全体委 員会、教育 研修関連R M小委員会	異状死の届出に関する研修会 講師 奥村徹(救急科長・助教授、救急部長)	126人
5	平成18年6月29日(木) (5号館3階会議室) 午後5時30分 ↓ 午後6時00分	医師	RM全体委 員会、教育 研修関連R M小委員会	異状死の届出に関する研修会 講師 奥村徹(救急科長・助教授、救急部長)	118人
6	平成18年7月10日(月) (6号館2階第3カンファレンスルーム) 午後5時30分 ↓ 午後6時00分	看護部師 長・主任、 管理会議 メンバー部 署	RM全体委 員会、教育 研修関連R M小委員会	異状死の届出に関する研修会	38人
7	平成18年7月12日(水) (10号館1階カンファレンスルーム) 午後5時30分 ↓ 午後6時00分	看護部師 長・主任、 管理会議 メンバー部 署	RM全体委 員会、教育 研修関連R M小委員会	異状死の届出に関する研修会	42人
8	平成18年7月19日(水) (有山記念館講堂) 午後6時10分 ↓ 午後6時40分	看護部師 長・主任、 管理会議 メンバー部 署	RM全体委 員会、教育 研修関連R M小委員会	異状死の届出に関する研修会	176人
9	平成18年8月9日(水) (5号館3階会議室) 午後5時30分 ↓ 午後6時00分	リスクマ ネー ジャー	RM全体委 員会、教育 研修関連R M小委員会	リスクマネージャー研修 「報告書の提出について」 講師 会田秀子(医療安全管理者 医療安全管理室課長補佐)	24人
10	平成18年8月16日(水) (5号館3階会議室) 午後5時30分 ↓ 午後6時00分	リスクマ ネー ジャー	RM全体委 員会、教育 研修関連R M小委員会	リスクマネージャー研修 「報告書の提出について」 講師 金井美紀(RM全体委員会委員長 膠原病・リウマチ内科講師 血漿交換療法室長)	50人

11	平成18年9月2日(土) 9月3日(日) (花王(株)霞ヶ浦研修所)	臨床研修 医(3病院 合同)	臨床研修セ ンター	「報告書の提出について」	64人
12	平成18年9月22日(金) (6号館2階第3カンファレンスルーム) 午後5時30分 ↓ 午後6時30分	医事課他 事務職員	医事課、RM 全体委員会、 教育研修関 連RM小委 員会	1. より良い接遇 講師天白 里 (株)ニチ学館新宿支店主任講師) 2. 標準予防策について 講師池田 恵(感染対策室ICP)	49人
13	平成18年9月28日(木) (6号館2階第3カンファレンスルーム) 午後5時30分 ↓ 午後6時30分	医事課他 事務職員	医事課、RM 全体委員会、 教育研修関 連RM小委 員会	1. より良い接遇 講師天白 里 (株)ニチ学館新宿支店主任講師) 2. 標準予防策について 講師池田 恵(感染対策室ICP)	48人
14	平成19年1月10日(水) (有山記念館講堂) 午後5時00分 ↓ 午後6時00分	医師・看 護師・リス クマネー ジャー	RM全体委 員会、教育 研修関連R M小委員会	「異状死について」 講師:齋藤一之 法医学研究室客員教授 埼玉医科大学法医学教室	365人
15	平成19年1月25日(木) (有山記念館講堂) 午後5時00分 ↓ 午後6時00分	医師・看 護師・リス クマネー ジャー	RM全体委 員会、教育 研修関連R M小委員会	「異状死について」 講師:齋藤一之 法医学研究室客員教授 埼玉医科大学法医学教室	320人

院長殿  
ゼネラルリスクマネジャー殿

年 月 日 No. \_\_\_\_\_  
時 分 受領  
平成 年 月 日

医療安全に関する報告書

\*統計様式と併せて提出して下さい。

医療安全管理室

部科(課)名: \_\_\_\_\_

所属長名: \_\_\_\_\_ 印

↑(影響レベル2以下は、省略可)

リスクマネジャー名: \_\_\_\_\_ 印

影響レベル  
(下段参照)

\*レベル3b以上は必ずマニュアルをコピーし、修正事項を記入して一緒に提出。 報告者名: \_\_\_\_\_ 印

件名			SEチーム連絡 有・無
発生場所			診療録に記載 有・無
発生日時	平成 年 月 日 ( )	午前・午後	時 分
患者氏名	殿 H・S・T 年 月 日生 ( )歳		男・女
	ID:	診療科:	科 外来・入院
	号館	病棟	号室 入院年月日: 平成 年 月 日
	原疾患名:		
発生状況等 概要 程度 転帰			
①本人・家族への説明 ②本人・家族の反応	患者への説明(有・無) 説明した人( ) 説明を受けた人( )		
予想される経過及び問題点と後遺症等。今後の対策			
備考	・ICと各種同意書(手術同意書、検査同意書等)の取得状況		

<影響レベル>

レベル	傷害の継続性	傷害の程度	内容(詳細は順天堂医院「医療事故防止対策マニュアル」参照)
レベル0			
1	なし		エラーや医薬品・医療用具の不具合が見られたが、患者には実施されなかった。患者に実害がなかった。
2		軽度	処置や治療は行わなかった。
3a	一過性	中等度	簡単な処置や治療を要した。
3b		高度	濃厚な処置や治療を要した。
4a	永続的	軽度 中等度	永続的な障害や後遺症は残ったが、有意な機能障害や美容上の問題は伴わない。
4b		中等度 高度	永続的な障害や後遺症は残り、有意な機能障害や美容上の問題は伴う。
5	死亡		死亡 (原疾患の自然経過によるものを除く)
その他			原疾患の経過中の死亡(他疾患の併発)等、上記以外の場合

\*より詳細な期記述を行う場合には、この用紙のほかにA4用紙を追加してください。

提出先: 回覧 報告者 → 所属RM → 所属長 → 医療安全管理室(ゼネラルリスクマネジャー) 影響レベル3b以上 → 管理課 → 院長 事462 1/2

医療安全に関する報告書(統計様式)

当事者又は責任者が該当箇所の太枠内に"レ"を記入

問題発生曜日	<input type="checkbox"/> 1 曜日	<input type="checkbox"/> 2 土・日・祭日	<input type="checkbox"/> 99 不明		
発生時間帯	<input type="checkbox"/> 1 時 分頃	<input type="checkbox"/> 2 17時~22時	<input type="checkbox"/> 3 22時~9時	<input type="checkbox"/> 99 不明	
影響レベル	<input type="checkbox"/> 1 レベル0・1	<input type="checkbox"/> 2 レベル2	<input type="checkbox"/> 3 レベル3a・b	<input type="checkbox"/> 4 レベル4a・b	<input type="checkbox"/> 5 レベル5
当事者職種	<input type="checkbox"/> 1 医師	<input type="checkbox"/> 2 歯科医師	<input type="checkbox"/> 3 助産師	<input type="checkbox"/> 4 看護師	<input type="checkbox"/> 5 准看護師
	<input type="checkbox"/> 6 看護助手	<input type="checkbox"/> 7 薬剤師	<input type="checkbox"/> 8 管理栄養士	<input type="checkbox"/> 9 栄養士	<input type="checkbox"/> 10 調理師・調理従事者
	<input type="checkbox"/> 11 診療放射線技師	<input type="checkbox"/> 12 臨床検査技師	<input type="checkbox"/> 13 衛生検査技師	<input type="checkbox"/> 14 理学療法士	<input type="checkbox"/> 15 作業療法士
	<input type="checkbox"/> 16 言語療法士	<input type="checkbox"/> 17 歯科衛生士	<input type="checkbox"/> 18 視能訓練士	<input type="checkbox"/> 19 精神保健福祉士	<input type="checkbox"/> 20 臨床心理士
	<input type="checkbox"/> 21 社会福祉士	<input type="checkbox"/> 22 介護福祉士	<input type="checkbox"/> 23 臨床工学技士	<input type="checkbox"/> 24 保育士	<input type="checkbox"/> 25 事務職員
	<input type="checkbox"/> 77 その他			<input type="checkbox"/> 99 不明	
当事者勤続年数	<input type="checkbox"/> 1 年	<input type="checkbox"/> 99 不明・その他			
当該部署配属年数	<input type="checkbox"/> 1 年	<input type="checkbox"/> 99 不明・その他			
発見者	<input type="checkbox"/> 1 当事者本人	<input type="checkbox"/> 2 同職種者	<input type="checkbox"/> 3 他職種者	<input type="checkbox"/> 4 患者本人	<input type="checkbox"/> 5 家族・付き添い
	<input type="checkbox"/> 6 他患者	<input type="checkbox"/> 77 不明	<input type="checkbox"/> 99 その他		
患者性別	<input type="checkbox"/> 1 男	<input type="checkbox"/> 2 女	<input type="checkbox"/> 3 特定できない		
患者の年齢	<input type="checkbox"/> 1 才	<input type="checkbox"/> 3 特定できない			
患者区分	<input type="checkbox"/> 1 入院患者	<input type="checkbox"/> 2 外来患者	<input type="checkbox"/> 99 その他		
患者側の要因	<input type="checkbox"/> 1 障害なし	<input type="checkbox"/> 2 意識障害	<input type="checkbox"/> 3 視覚障害	<input type="checkbox"/> 4 聴覚障害	<input type="checkbox"/> 5 構音障害
	<input type="checkbox"/> 6 精神障害	<input type="checkbox"/> 7 痴呆・健忘	<input type="checkbox"/> 8 上肢障害	<input type="checkbox"/> 9 下肢障害	<input type="checkbox"/> 10 歩行障害
	<input type="checkbox"/> 11 床上安静	<input type="checkbox"/> 12 睡眠中	<input type="checkbox"/> 13 せん妄状態	<input type="checkbox"/> 14 薬剤の影響下	<input type="checkbox"/> 15 麻酔中・麻酔前後
	<input type="checkbox"/> 77 不明	<input type="checkbox"/> 99 その他			
発生場所	<input type="checkbox"/> 1 外来・診察室	<input type="checkbox"/> 2 外来・待合室	<input type="checkbox"/> 3 外来・その他	<input type="checkbox"/> 4 救急処置室	<input type="checkbox"/> 5 病棟・ナースst
	<input type="checkbox"/> 6 病棟・病室	<input type="checkbox"/> 7 病棟・処置室	<input type="checkbox"/> 8 病棟・浴室	<input type="checkbox"/> 9 病棟・その他	<input type="checkbox"/> 10 手術室
	<input type="checkbox"/> 11 分娩室	<input type="checkbox"/> 12 ICU	<input type="checkbox"/> 13 CCU	<input type="checkbox"/> 14 NICU	<input type="checkbox"/> 15 集中治療室・その他
	<input type="checkbox"/> 16 検査室	<input type="checkbox"/> 17 機能訓練室	<input type="checkbox"/> 18 機能訓練室(重複)	<input type="checkbox"/> 19 IVR処置室	<input type="checkbox"/> 20 放射線撮影室
	<input type="checkbox"/> 21 核医学検査室	<input type="checkbox"/> 22 放射線治療室	<input type="checkbox"/> 23 透析室	<input type="checkbox"/> 24 薬局・輸血部	<input type="checkbox"/> 25 調理室栄養管理室
	<input type="checkbox"/> 26 トイレ	<input type="checkbox"/> 27 廊下	<input type="checkbox"/> 28 階段	<input type="checkbox"/> 77 その他・院内	<input type="checkbox"/> 99 その他・院外
発生場面	<input type="checkbox"/> 1 針刺し事故	<input type="checkbox"/> 2 指示出し	<input type="checkbox"/> 3 情報伝達過程	<input type="checkbox"/> 4 与薬準備	<input type="checkbox"/> 5 処方・与薬
	<input type="checkbox"/> 6 調剤・調剤管理	<input type="checkbox"/> 7 点滴	<input type="checkbox"/> 8 輸血	<input type="checkbox"/> 9 手術	<input type="checkbox"/> 10 麻酔
	<input type="checkbox"/> 11 留置針・チューブ類使用・管理	<input type="checkbox"/> 12 出産・人工流産	<input type="checkbox"/> 13 その他の治療	<input type="checkbox"/> 14 転倒・転落	<input type="checkbox"/> 15 誤嚥・誤飲
	<input type="checkbox"/> 16 抑制に関わること	<input type="checkbox"/> 17 入浴	<input type="checkbox"/> 18 排泄	<input type="checkbox"/> 19 その他療養上の場面	<input type="checkbox"/> 20 処置
	<input type="checkbox"/> 21 診察	<input type="checkbox"/> 22 内視鏡検査	<input type="checkbox"/> 23 内視鏡以外の検査	<input type="checkbox"/> 24 給食・栄養	<input type="checkbox"/> 25 熱傷・凍傷
	<input type="checkbox"/> 26 外出・外泊関係	<input type="checkbox"/> 27 院内での暴力	<input type="checkbox"/> 28 自殺	<input type="checkbox"/> 29 盗難	<input type="checkbox"/> 30 診療情報管理
	<input type="checkbox"/> 31 患者家族への説明	<input type="checkbox"/> 32 物品搬送	<input type="checkbox"/> 33 放射線管理	<input type="checkbox"/> 34 医療ガス	<input type="checkbox"/> 35 医療機器使用・管理
	<input type="checkbox"/> 36 施設・設備	<input type="checkbox"/> 99 その他			
発生要因	<input type="checkbox"/> 1 確認	<input type="checkbox"/> 2 観察	<input type="checkbox"/> 3 判断	<input type="checkbox"/> 4 知識	<input type="checkbox"/> 5 技術・手技
	<input type="checkbox"/> 6 報告など	<input type="checkbox"/> 7 身体的条件	<input type="checkbox"/> 8 心理的条件	<input type="checkbox"/> 9 システム	<input type="checkbox"/> 10 連携
	<input type="checkbox"/> 11 記録等の記載	<input type="checkbox"/> 12 患者外見姓名類似	<input type="checkbox"/> 13 勤務状況	<input type="checkbox"/> 14 環境	<input type="checkbox"/> 15 医療機器・材料
	<input type="checkbox"/> 16 薬剤	<input type="checkbox"/> 17 諸物品	<input type="checkbox"/> 18 施設・設備	<input type="checkbox"/> 19 教育・訓練	<input type="checkbox"/> 20 説明・IC
	<input type="checkbox"/> 99 その他				
起きていたであろう事故の影響度	<input type="checkbox"/> 1 小規模事故が予想された	<input type="checkbox"/> 2 中規模事故が予想された	<input type="checkbox"/> 3 大規模事故が予想された	<input type="checkbox"/> 4 事故は防げなかった	<input type="checkbox"/> 5 不明

\*当事者が複数人の場合は当事者職種、経験年数、部署配属年数のみを記載してください。

報告書の提出を必要とする状況

- ①  患者様に障害が発生する可能性があった事態
- ②  患者様に障害が発生した事態
  - 1 与薬に関するインシデント・アクシデント
  - 2 医療機器・用具の不具合
  - 3 転倒、転落
  - 4 自殺、自殺企図
  - 5 無断離院
  - 6 発見、対処(処置)の遅れ
- ③  患者・家族からの苦情(医療行為に関する)
- ④  室料など「減免」を必要とする事態
- ⑤  患者影響は無いが検討を必要とする状況

\*  に"レ"を記入してください

- <例>①③ ①患者様に障害が発生する可能性があった事態+3転倒(①②に含まれるもの)
- 7 患者自身の自己管理薬の服用ミス
  - 8 患者自身の針刺し
  - 9 処置・手術・検査実施後、緊急入院から24時間以内に死亡された場合
  - 10 予期しない合併症
  - 11 予期出来る合併症であるが、ICが不十分であった事態
  - 12 エラーは無いが、結果的に事故となった場合で、報告が必要と考えられる事例